

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	後期
			実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

倫理学の基本的な概念を理解し、倫理的問題に対して考える力を培う。

[授業内容の流れ]

1	倫理学と医療倫理学
2	人間の尊厳と医療
3	インフォームド・コンセント
4	患者の権利
5	輸血拒否
6	守秘義務
7	生殖医療の倫理的諸問題 (1) 一社会問題としての不妊一
8	生殖医療の倫理的諸問題 (2) 一人工授精と体外受精一
9	生殖医療の倫理的諸問題 (3) 一代理出産一
10	生殖医療の倫理的諸問題 (4) 一出生前診断一
11	移植医療の倫理的諸問題 (1) 一脳死一
12	移植医療の倫理的諸問題 (2) 一臓器移植一
13	終末期医療の倫理的諸問題 (1) 一人生の最終段階における医療・ケア一
14	終末期医療の倫理的諸問題 (2) 一緩和ケア一
15	終講試験

〈評価の方法〉

筆記試験 100点

受講上の注意:

明確な問題意識をもって講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。

[使用テキスト・参考文献等]

テキストは使用しない。

参考文献は講義中に随時紹介する。

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	後期
	論理的思考と看護						1(30)

[授業目標]

論理的思考の形成と法則を学び、議論において客観的で筋道の通った主張が展開できる

[授業内容・授業の流れ]

1	論理的な文章とはどういうものか
2	用紙の使い方、記号の使い方/文章作成
3	語について(1)
4	語について(2)
5	文について(1)
6	文について(2)
7	文について(3) /文章作成
8	文と文の関係(1)
9	文と文の関係(2)
10	論証(1) : 論証とはどのようなものか
11	論証(2) : 隠れた前提
12	論証(3) : 代替仮説の検討
13	文章全体の構成(1) /文章作成
14	文章全体の構成(2)
15	筆記試験

〔評価の方法〕

最終回の筆記試験を行い  
その内容と形式を評価します。

受講上の注意:

授業では何回か作文をしてもらいます。  
それを講師が添削しお返しします。  
これを繰り返すことで論文作成の仕方を学びます。

[使用テキスト・参考文献等]

ナースのための実践論文講座 松葉 人文書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	前期
	情報と看護I						1(30)

【授業目標】

情報倫理・ネットワーク・情報セキュリティ等の基本的な知識を習得し情報社会での行動に責任を持つことができる。  
健康に留意して情報機器を利用することができる。

【授業内容の流れ】

1	コンピュータ概論、情報セキュリティと情報モラル
2	(Word) 文字入力とファイル管理
3	(Word) 基本的な文書の作成
4	(Word) ビジネス文書の作成
5	(Word) 表の作成
6	(Word) 図形とイラストの挿入
7	(Excel) 集計表の作成
8	(Excel) 関数を使った表計算(合計、平均、最大、最小、件数)
9	(Excel) 関数を使った表計算(順位、IF関数)
10	(Excel) データの活用(VLOOKUP関数)
11	(Excel) 統計処理(統計処理とは、代表値)
12	(Excel) 統計処理(演習)
13	(Excel) 統計処理(相関)
14	(Excel) データとグラフ
15	まとめ 終講試験

【評価の方法】

授業での課題: 50点  
筆記試験: 50点

受講上の注意:

教室で受講される際は、講義中にパソコンで作成したファイルを保存するため、各自USBメモリ(Type-A)を持参してください。  
(スマホ用やType-Cと書かれているものは使えません)

【使用テキスト・参考文献等】

医療従事者のための情報リテラシー 日経BP社

授業内容(シラバス) 2025年度 (26期生 3年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	前期
	情報と看護II		実務経験有			単位数(時間数)	1(15)

「授業目標」

情報倫理・ネットワーク・情報セキュリティの基本的な知識を習得し情報社会での行動に責任を持つことができる。健康に留意して情報機器を利用することができる。

【授業内容の流れ】

1	(PowerPoint) プレゼンテーションの作成
2	(PowerPoint) プレゼンテーションのデザイン
3	(Excel) 統計処理(統計処理の復習)
4	(Excel) 統計処理(推測統計)
5	(PowerPoint) 演習1
6	(PowerPoint) 演習2
7	(Word/Excel/PowerPoint) 復習
8	まとめ 終講試験

〈評価の方法〉

授業での課題: 50点  
筆記試験: 50点

受講上の注意:

教室で受講される際は、講義中にパソコンで作成したファイルを保存するため、各自USBメモリ(Type-A)を持参してください。  
(スマホ用やType-Cと書かれているものは使えません)

【使用テキスト・参考文献等】

医療従事者のための情報リテラシー 日経BP社

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	前期
			実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

[授業目標]

人間の各発達段階における発達課題を理解し、社会との相互的な関わり合いのなかで生涯発達する存在として理解する。

[授業内容・授業の流れ]

1	オリエンテーション、人間の発達（心身の発達、心の発達）
2	乳児期①
3	乳児期②
4	幼児期前期
5	幼児期後期
6	学童期①
7	学童期②
8	思春期①
9	思春期②
10	青年期
11	成人前期
12	成人中期・成熟期
13	成人後期
14	人間の環境への適応（まとめ）
15	終講試験

〔評価の方法〕

授業内レポートと  
筆記試験を総合して評  
価：100点

受講上の注意：

毎回授業開始時に、復習レポートを書いてもらいます。  
(150字程度)

[使用テキスト・参考文献等]

生涯人間発達論 服部祥子 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	後期
	人間関係論		実務経験有			単位数(時間数)	1(15)

[授業目標]

人間関係の基礎的知識を学び、看護者にふさわしい人間関係について理解する  
カウンセリングを活かしたコミュニケーションの実際を学ぶ

[授業内容・授業の流れ]

1	人間関係の中の自己と他者 対人関係と役割
2	態度と対人行動 集団と個人
3	コミュニケーション カウンセリングと心理療法
4	コーチング アサーティブコミュニケーション
5	保健医療チームの人間関係 患者を支える人間関係
6	家族を含めた人間関係 地域をつくる人間関係
7	アセスメント
8	終講試験 まとめ

[評価の方法]

筆記試験 100点

受講上の注意:

自分自身のメンタルケア 他者への理解と援助について  
学んで実践して下さい

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義	時期	後期
	看護におけるコミュニケーション		実務経験有			単位数(時間数)	1(15)

[授業目標]

看護におけるコミュニケーションの構成要素と成立過程、関係構築のためのコミュニケーションの基本を学び、適切なメッセージを伝える方法を学ぶ

[授業内容・授業の流れ]

1	コミュニケーションの概念 看護におけるコミュニケーションを学ぶ意義
2	関係構築のためのコミュニケーション 笑顔の練習
3	効果的なコミュニケーション 聴くということ
4	患者さんとの対応・・・ロールプレイを活用して
5	相手への関係構築・・・グループワークを考える
6	相手との相互関係を考える。
7	コミュニケーション障害がある人への対応
8	まとめ、終講試験

〔評価の方法〕

筆記試験 80点  
演習:レポート(ループリック) 20点

受講上の注意:

コミュニケーションの技術は、講義を聞くだけでは身につきません。講義で得られたことをロールプレイで活用しながらコミュニケーションをとり、自分が相手にどういう影響をもたらすのかを考えてみましょう。

[使用テキスト・参考文献等]

基礎看護技術 I 基礎看護学 2 : 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時 期	前期
	社会学		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

[授業目標]

- 個人が所属するあるいは新たに所属していく社会の一員と認められるために、他の人々との相互作用を通して、その社会の価値観や規範・制度・行動様式を学習し自己のパーソナリティを発達させていく過程を学ぶ。
- 援助過程に見える危機や、それを乗り越えるための社会的繋がりや支援の方法について学ぶ。

[授業内容・授業の流れ]

1	社会学の考え方と捉え方
2	組織集団の形成
3	集団としての親族
4	家族の分類と類型
5	ジェンダーの概念と価値観
6	ジェンダーと男女共同参画社会
7	青年期における相互作用
8	社会制度としての結婚の意味と機能
9	社会制度としての離婚と社会的背景
10	社会化というプロセス
11	宗教と社会
12	危機への対応と包括的支援
13	高齢者福祉と社会的紐帯
14	物流と医療の社会システム、まとめ
15	終講試験

<p>〈評価の方法〉</p> <p>① 授業参加度 (発言シート) 15%</p> <p>② レポート等の提出物 35%</p> <p>③ 終講試験 50%</p> <p>以上の配分によって 総合評価を行います。</p>	<p>受講上の注意 :</p> <p>私語は厳禁に致します。本講義ではすべての講義時間に 発言や発表を求めます。成績評価にかかわりますので 講義初日に配布する「発言シート」を最終講義日に必ず 提出して下さい。</p>
<p>「使用テキスト・参考文献など」</p> <p>テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>参考文献: 友枝敏雄 竹沢尚一郎 他著、「社会学のエッセンス 新版補訂版」、有斐閣。 岩間暁子 大和礼子 他著、「問い合わせはじまる家族社会学」、有斐閣ストゥディア。</p>	

授業内容(シラバス) 2025年度 ( 28期生 1年生 )

授業科目	[ 基礎分野 ]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時 期	
	地域コミュニティ論		実務経験有			単位数(時間数)	1(16)

[授業目標]

私たちが暮らす地域(奈良)に関心を寄せ、幅広い視野で地域に目を向けることができる  
地域の環境とそこで暮らす人々の生活を関連させて考えることができる  
コミュニティのちから(強味)を発見できる  
地域の課題を発見し、地域を創造する力を養う

[授業内容・授業の流れ]

1	イントロダクション:「コミュニティ」とは何か／個人・家族の生き方と コミュニティ	
2	社会問題とコミュニティ	
3	都市におけるコミュニティの変容と地域メディア	
4	現代都市の「居場所」論	
5	奈良地域の概要	
6	住民主体の地域再生の事例	
7	社会的処方の概念と実例	
8	これからのかのコミュニティデザイン	

〈評価の方法〉

レポート課題(2本)の総合点  
により評価

受講上の注意:

この授業は4人の教員によるリレー形式で実施します。  
授業形態は、遠隔の予定です。

[使用テキスト・参考文献等]

[使用するテキスト] 特になし(レジュメを配布)

[参考文献] 授業中に適宜紹介する。

授業内容(シラバス) 2025年度 ( 28期生 1年生 )

授業科目	[ 基礎分野 ] 家族看護論	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	後期
			実務経験有			単位数(時間数)	1 (15)

[授業目標]

「家族」について考え、健康問題のある家族に対するアセスメントと介入に必要な理論と方法、家族看護の役割について学ぶ

[授業内容・授業の流れ]

1	個人と家族の価値観 家族の概念
2	家族看護の対象理解 ジェノグラムの作成
3	家族看護の対象理解
4	家族を支える理論の介入法
5	家族を支える理論の介入法
6	家族看護過程展開方法
7	事例に基づく家族看護の実践 グループワーク まとめ
8	終講試験 (45分)

〈評価の方法〉

筆記試験  
グループワーク参加度  
出席状況

受講上の注意 :

グループワークを多く含みます。積極的に参加しましょう。

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 家族看護学 医学書院  
家族看護学 理論と実践 日本看護協会出版会  
家族看護学 臨床場面と事例から考える。 南江堂

授業内容(シラバス) 2025年度 ( 28期生 1年生 )

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	時期	前期		
	文化と生活		実務経験無		講義	単位数(時間数)		
<b>[授業目標]</b>								
文化人類学の基礎的な考え方を習得することで、人間の生活や文化の持つ複雑性を理解し、看護の現場においてそれらの知見を活用することができるようになる。								

**[授業内容・授業の流れ]**

1	ガイダンス、文化・生活とは何か?
2	なぜ看護学校で文化について学ぶのか?
3	質的研究とエスノグラフィ
4	エスノグラフィを書く1
5	エスノグラフィを読む1
6	エスノグラフィを読む2
7	エスノグラフィを書く2
8	終講試験

〈評価の方法〉 授業への貢献(コメントペーパーの提出、グループワークへの参加など) 40% + GW 課題 10% + 終講試験の成績 50% で評価します。	受講上の注意 : ・授業はスライドをもとに、プリントやレジュメの配布により情報を補足します。授業回によっては映像資料を使用することがあります。 ・授業は講義とグループワークを中心に行います。 ・授業に際して特別な配慮が必要な場合は、早めに担当講師までお知らせください。
<b>[使用テキスト・参考文献等]</b> 波平恵美子編『文化人類学 カレッジ版 第4版』(医学書院)	

**【授業に関する連絡先】**

にメールにてご連絡ください (本文に、必ずお名前をご記入ください)。質問や相談などは授業の前後の時間にも対応します。

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	前期
	運動と健康		実務経験有			単位数(時間数)	1(15)

[授業目標]

身体の活動を通じ、協調性、忍耐力を養うとともに心のゆとり及び豊かさを感受する。

[授業内容・授業の流れ]

1	ガイダンス 授業の進め方について説明しシラバスの内容を確認する
2	自己紹介(過去・現在の運動歴等について)「みんなの体操」実技練習
3	体力測定(文部科学省 新体力テスト+閉眼片足立ち)
4	チーム名発表 ビーチボール バレーリーグ戦①
5	体力測定結果説明 ビーチボール バレーリーグ戦②
6	ビーチボールバレーリーグ戦③
7	ビーチボールバレーリーグ戦④
8	「みんなの体操」実技テスト レポート

〈評価の方法〉

実技試験:「みんなの体操」の実施とレポートを総合して評価:100点

受講上の注意:

スポーツ・レクリエーションの全般を実際に実施・体験することで指導に必要な知識を深めるだけでなく、自らの健康維持増進に努める

[使用テキスト・参考文献等]

テキストは使用しないので、計画・実施上必要な資料を作成すること

授業内容(シラバス) 2025年度(第28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時 期	後 期
			実務経験者			単位数(時間数)	(30)

[授業目標]

- ① 教育が文化・社会の動態と人間の成長・発達に影響を与え、人間が形成されることを理解すると共に、生涯学習の必要性を理解する。
- ② 看護専門職の活動と教育専門職の活動とのかかわりについて理解する。
- ③ 基礎的・汎用的能力をはじめとした総合的な人間力を身につける。

[授業内容・授業の流れ]

「看護」以前に、「看護」以外に知り、考え、学び、身につけておくべき「基礎分野」がある。それは「基礎的・汎用的能力(社会人基礎力)」をはじめとした総合的「人間力」である。特に急激に変化し、複雑化・多様化する現代社会に看護専門職として従事するためには、自ら学び、判断し、行動する力、及び人権意識を高め、人や社会の様々な様相を把握し理解する力等が必須である。

この授業では、「教育学」の基礎理論を窓口として、あらゆる健康状態にある対象への看護における広義の教育的関わりを学ぶことを通し、看護専門職を目指すための基礎的力量形成を図る。

第1週	教育学を学ぶために①	ガイダンス、社会のなかの教育と看護
第2週	教育学を学ぶために②	教育とはなにか
第3週	教育学を学ぶために③	教育の対象
第4週	教育学を学ぶために④	社会変動と教育 教育の組織化
第5週	教育をなりたたせるもの①	教授
第6週	教育をなりたたせるもの②	訓育 養護
第7週	教育をなりたたせるもの③	発達
第8週	教育の営みを考える①	学びの場
第9週	教育の営みを考える②	教育の目標と評価
第10週	教育の営みを考える③	教育のメディア
第11週	教育の営みを考える④	教育の担い手
第12週	教育の営みを考える⑤	教育の場の変動
第13週	現代教育の課題①	キャリア教育 ジェンダーとセクシュアリティ
第14週	現代教育の課題②	特別ニーズ教育 インクルーシヴ教育 生涯教育 シティズンシップ教育
第15週	終講試験 まとめ	

〈評価の方法〉 筆記試験、課題レポート内容、及び授業へ取り組み状況等をもとに、総合的に評価する。	受講上の注意: 「教育学」を学ぶ意義と重要性について考えながら、積極的態度で受講すること。
---	--

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 (その他必要な資料等は適宜配布する予定)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時 期	前期
	英語		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

[授業目標]

臨床看護英語の学習を通して、医療現場における英語表現について学習する。

[授業内容・授業の流れ]

1	Chapter1	患者を迎える	病院内施設、病院内備品
2	Chapter2	バイタルサイン測定	機器類、看護物品、脈拍測定部位
3	Chapter3	痛みのアセスメント	痛みの表現、問診、体の部位
4	Chapter4	症状	症状チェック表／様々な症状、検査項目
5	Chapter5	体位変換／移乗	体位／動きの表現 歩行補助機器
6	Chapter6	診療科目	診療科と専門医／検査のための表現、人体器官系
7	前期中間試験(音読試験及び筆記試験)	(Chapter7まとめと医学英語の構造など振り返り等を含む試験)	(Chapter7まとめと医学英語の構造など振り返り等を含む試験)
8	Chapter8	日常生活援助	身だしなみ用具、専門家との連携
9	Chapter9	与薬	薬剤の種類／投薬指示の表現、薬の効能
10	Chapter10	排泄(排便／排尿)	排泄の表現、排尿の仕組み、関連語句
11	Chapter11	慢性疾患	患者情報収集、慢性疾患
12	Chapter12	急性期／手術室	周手術期看護 集中治療室用語
13	Chapter13	妊婦健診	妊娠初期／中期、陣痛と出産、産科用語
14	Chapter14	まとめと医学英文読解	
15	終講試験	(音読試験及び筆記試験)	

〈評価の方法〉

前期中間試験(音読)	30%
終講試験(音読)	30%
前期中間筆記試験・終講筆記試験	30%
授業態度・欠席等	10%

受講上の注意:

コミュニケーション・ツールとしての英語活用能力向上を図るため、看護・医療の専門語句や表現は何度も声に出して学習して下さい。  
日常の医療現場で生かせる英語力を身につけましょう。  
オンライン等の英和辞典を用意すること。

[使用テキスト・参考文献]

Talking with your patients in English (アニメで学ぶ看護英語) (株)成美堂 発刊

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態	講義	時 期	前期
	解剖学 I					単位数(時間数)	1 (21)

[授業目標]

- ・人体の発生・構成について学ぶことを通してその働きを理解する。
- ・生命活動の基盤、人体を支え運動の基盤となる仕組み、体内をめぐる循環器系・体内に取り込む仕組み呼吸器系を理解する

[授業内容・授業の流れ]

1	解剖学序論・細胞と組織(総論)
2	運動器：骨と筋(総論)
3	運動器：骨と筋(体幹・頭頸部)
4	運動器：(上肢)
5	運動器：(下肢)
6	循環器：心臓
7	循環器：脈管
8	循環器：血液とリンパ
9	呼吸器：気道
10	呼吸器：肺
11	終講試験 45 分

〈評価の方法〉

筆記試験 100 点

〈受講上の注意〉

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 人体の構造と機能 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	後期
	解剖学II		実務経験有			単位数(時間数)	1(21)

[授業目標]

- 体内に栄養を取り込む仕組み、情報を受け取り、処理する仕組み、について理解する

[授業内容・授業の流れ]

1	泌尿器系I (腎臓の組織構造: ネフロン、糸球体、ボーマン嚢、尿細管)
2	泌尿器系II (排出系の臓器の構造: 腎孟、尿管、膀胱、尿道)
3	内分泌系I (内分泌の定義、内分泌系器官の発生と種類: 下垂体、甲状腺、副腎)
4	神経系I (総論: 末梢神経と中枢神経、神経細胞と非神経細胞)
5	神経系II (中枢神経: 中枢神経の発生、脊髄の構造)
6	神経系III (中枢神経: 脳室と髄膜、脳幹、小脳、間脳、大脳)
7	神経系IV (下行伝導路と上行伝導路)
8	神経系V (末梢神経: 脊髄神経の構造、支配域)
9	神経系VI (末梢神経: 脳神経の種類と支配域)
10	泌尿器系・内分泌系・神経系の総復習
11	終講試験 45分

〈評価の方法〉

筆記試験 100点

〈受講上の注意〉

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 人体の構造と機能 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態	講義	時 期	後期
						単位数(時間数)	1 (21)

[授業目標]

- ・情報を受け取る仕組み、体内に栄養を取り込む仕組み、子孫を残すための仕組み、について理解する

[授業内容・授業の流れ]

1	感覚器 I (視覚、聴覚器官の構造)
2	感覚器 II (味覚、触覚器官の構造)
3	消化器系 I (消化管の構造: 口、咽頭、食道)
4	消化器系 II (消化管の構造: 胃・小腸・大腸・虫垂)
5	消化器系 III (肝臓・胆のう・膵臓)
6	生殖器系 I (男性生殖器: 精路と付属生殖腺)
7	生殖器系 II (女性生殖器: 卵巣、卵管、子宮)
8	生殖器系 III (女性生殖器: 月経周期、卵巣周期、受精と着床)
9	生殖器系 IV (胎児と胎盤、胎児循環、臓器の発生)
10	感覚器系、消化器系、生殖器系の総復習
11	終講試験

〈評価の方法〉

筆記試験 100 点

〈受講上の注意〉

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 人体の構造と機能 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態	講義	時 期	前期
						単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

生体が環境変化に応答し、適応する仕組みについて生理学的に学ぶ

[授業内容・授業の流れ]

1	人体の構成と生体物質
2	人体の構成と生体物質
3	ホメオスタシスと体液
4	ホメオスタシスと体液
5	消化と吸収
6	消化と吸収
7	呼吸と血液
8	呼吸と血液
9	血液と生体防御
10	血液と生体防御
11	血液の循環とその調節 I
12	血液の循環とその調節 I
13	血液の循環とその調節 II
14	血液の循環とその調節 II
15	テスト

〔評価の方法〕

筆記試験を総合して評価する

受講上の注意:

- 教科書を使用するので前以て予習してくること
- わからないことはできるだけ授業中に挙手して質問する
- パワーポイントを用いて教科書の内容をわかりやすく説明する
- 毎回始めに小テストを配布するので次の授業までに仕上げる(整理と復習)

〔使用テキスト・参考文献等〕

系統看護学講座 人体の構造と機能・解剖生理学 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態	講義	時 期	後期
						単位数(時間数)	1(30)

[授業目標]

生体が環境変化に応答し、適応する仕組みについて生理学的に学ぶ

[授業内容・授業の流れ]

1	体液の調節と尿の形成
2	体液の調節と尿の形成
3	内分泌による調節
4	内分泌による調節
5	神経系による調節
6	神経系による調節
7	脊髄と脳
8	脊髄と脳
9	感覚
10	感覚
11	運動、下行伝導路
12	運動、下行伝導路
13	生殖
14	生殖
15	テストとQ&A

〈評価の方法〉

小筆記試験を総合して評価する

〈受講上の注意〉

- ・教科書を使用するので前以て予習してくること
- ・わからないことはできるだけ授業中に挙手して質問する
- ・パワーポイントを用いて教科書の内容をわかりやすく説明する
- ・毎回初めに小テストを配布するので講義中に仕上げる(整理と復習)

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 人体の構造と機能 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	後期
						単位数(時間数)	1(30)

[授業目標]

生化学は人体の様々な生命現象を細胞レベル、分子レベルで説明しようとする学問です。

本講義では、主要な生体成分の構造と機能およびそれらの代謝(合成・分解)、遺伝および遺伝情報の保存と発現の仕組み、多細胞生物における細胞間ならびに細胞内シグナル伝達機構の基本知識の習得を図ります。これにより、さまざまな生命現象の根底にある物質的な変化の過程を理解できるようにします。

[授業内容・授業の流れ]

1	生体の階層性と細胞の構造・オルガネラの機能
2	細胞膜と膜タンパク質の働き、
3	生体構成元素、生体成分(1)糖質の構造と機能
4	生体成分(2)脂質の構造と機能
5	生体成分(3)たんぱく質・アミノ酸の構造と機能
6	代謝概要(1)代謝と酵素の作用
7	代謝概要(2)糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝の概要
8	遺伝情報の保存と発現(1)核酸の構造と機能
9	遺伝情報の保存と発現(2)遺伝情報の半保存的複製
10	遺伝情報の保存と発現(3)転写のメカニズム
11	遺伝情報の保存と発現(4)翻訳のメカニズムと翻訳後修飾
12	多細胞生物におけるシグナル伝達機構(1) 細胞間のシグナル(情報)伝達の仕組み
13	多細胞生物におけるシグナル伝達機構(2) 細胞内のシグナル(情報)伝達;脂溶性リガンド
14	多細胞生物におけるシグナル伝達機構(3) 細胞内のシグナル(情報)伝達;水溶性リガンド (Gたんぱく質共役型受容体、酵素共役型受容体)
15	総括 終講試験

[評価の方法]

授業課題 15%～50%  
終講試験 50%～85%

受講上の注意:

事前学習として教科書や授業資料の該当箇所の通読、事後学習として毎回の授業内で実施する授業課題(小テスト)などの振り返りを通じて、授業内容の定着を図って下さい。

[使用テキスト]

系統看護学講座 専門基礎分野 生化学—人体の構造と機能2  
(畠山鎮次著、医学書院、2024年、第14版)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	時 期	後期
	栄養学・NST		実務経験有		講義	単位数(時間数)
<b>[授業目標]</b>						

生命の維持及び健康の保持に重要な栄養素の働きとバランスを学ぶ。  
生活習慣病、摂食障害など現在の食生活のあり方を学ぶ。  
チーム医療を基本とした栄養管理について学ぶ。

**[授業内容・授業の流れ]**

1	第1章 健康と栄養…栄養とは? 健康と栄養の関連性について 健康状態と栄養のアセスメント、自分の食生活の評価、食と文化	
2	第2章 日常生活と栄養…日常生活における食事の意義 日本人の食事摂取基準 スポーツと栄養	
	第3章 栄養指導・保健指導…特定検診・特定保健指導とは	
3	第4章 食物と栄養・栄養素とその働き ① エネルギー (食事バランスガイドについて 他) ② 炭水化物 食物繊維について	
4	③ 脂質と脂肪酸について (脂質異常症他)	
5	④ タンパク質とアミノ酸について	
6	⑤ ビタミンの働き (欠乏症と過剰症)	
7	⑥ ミネラルの種類と働き (主要無機質と微量無機質について)	
8	⑦ 水分・電解質と酸一塩基平衡について	
9	三大栄養素の代謝と消化吸収・ホルモンについて	
10	第5章 ライフステージと健康教育 ①思春期・青年期の栄養 (食生活の留意点など) ②成人期栄養 (成人期の食生活の特徴・メタボリックシンドロームなど)	
11	テストと解説	
12	栄養・栄養管理	
13	疾病別栄養管理	
14	栄養療法栄養サポートチーム	
15	終講試験・解説	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 先生 (70点満点) 先生 (30点満点)	受講上の注意: ・毎回教科書を持参すること ・プリント類はファイルにして整理すること ・課題にはしっかり取り組むこと
	<b>[使用テキスト・参考文献等]</b> 新体系看護学 わかりやすい栄養学 ヌーベルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院

授業内容（シラバス） 2025年度（28期生 1年生）

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	後期
	病理学		実務経験有			単位数（時間数）	1 (30)

[授業目標]

疾病（病気）の分類、原因、成り立ち、病変、経過などを学ぶことを通して疾病の概念（疾病とは何か？）を理解する

[授業内容の流れ]

1	1.病因
2	2.退行性病変と代謝異常
3	2.退行性病変と代謝異常
4	3.循環障害
5	4.進行性病変
6	5.炎症と免疫
7	5.炎症と免疫
8	5.炎症と免疫
9	6.感染症
10	7.腫瘍
11	7.腫瘍
12	7.腫瘍・8.先天異常と小児疾患
13	8.先天異常と小児疾患
14	9.老化
15	試験

〈評価の方法〉

試験

受講上の注意：

板書にて授業を行います。チョークの用意お願いします。

[使用テキスト・参考文献等]

わかりやすい病理学

南江堂

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	前期
			実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

微生物の分類や特徴を知り、人間の疾患に関する基礎的知識を習得する。  
各種感染症の分類、感染防御、院内感染対策などの基礎的知識を習得する。

[授業内容・授業の流れ]

1	微生物概論 (細菌)
2	微生物概論 (真菌)
3	微生物概論 (原虫・ウイルス)
4	感染症の予防と治療
5	感染に対する生体防御機構 1
6	感染に対する生体防御機構 2
7	感染に対する生体防御機構 3
8	細菌各論 1
9	細菌各論 2
10	細菌各論 3
11	真菌各論
12	原虫各論
13	ウイルス各論 1
14	ウイルス各論 2
15	終講試験

[評価の方法]

筆記試験 100点

受講上の注意:

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 微生物学 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	後期
	臨床薬理学		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

[授業目標]

現在医学における薬物治療について知ることと併せて、代表的な薬物の人体への作用の仕組み、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理について理解する。

[授業内容・授業の流れ]

1	薬理学総論Ⅰ(薬物による病気の治療、薬理学とはなにか、薬力学)
2	薬理学総論Ⅱ(薬物動態学、薬物相互作用)
3	薬理学総論Ⅲ(薬効に影響する因子、有益性と危険性、薬と法律)
4	抗感染症薬について
5	抗がん薬・免疫治療薬について
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬について
7	末梢での神経活動に作用する薬物について
8	中枢神経系に作用する薬物について
9	循環器系に作用する薬物について (降圧薬・狭心症治療薬・心不全治療薬・抗不整脈薬)
10	循環器系に作用する薬物について (降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬)
11	呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物について
12	物質代謝に作用する薬物について
13	皮膚科用薬、眼科用薬、救急の際に使用される薬物について
14	漢方薬・消毒薬・輸液製剤・輸血剤について
15	終講試験・解説

評価の方法 筆記試験 100点	受講上の注意: 事前学習 ・薬の名前や作用等覚える項目が多いため、予習・復習が大切である。 ・基礎的な事項は自分で確認する習慣をつけることが必要である。
--------------------	---

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 専門基礎分野5 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学

医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野] 疾病論 I	講師名	外部講師	授業形態 講義	時期	後期
			実務経験有		単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

系統別に呼吸器、循環器、消化器内科、運動器の代表的な疾患について必要な病態生理、症状、検査治療などについて理解する。

[授業内容・授業の流れ]

1	食道、胃、十二指腸	
2	肝臓、胆道	
3	脾、小腸、大腸	
4	心臓カテーテルについて	
5	循環器疾患各論	
6	循環器疾患総論	
7	循環器疾患まとめ	
8	呼吸器の構造と機能 呼吸器の症状とその病態生理	
9	呼吸器の検査と治療・処置	
10	呼吸器感染症 間質性肺炎	
11	気道疾患 肺腫瘍 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患	
12	運動器の構造と機能	
13	診断・検査と治療・処置	
14	疾患の理解	
15	終講試験	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 (消内) 20点、(循環器) 30点 (呼吸器) 30点 (運動器) 20点	受講上の注意:
---	---------

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 専門分野II 成人看護学② 呼吸器 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学③ 循環器 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑤ 消化器 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑩ 運動器 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門基礎分野] 疾病論II	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態 講義	時 期	後期
					単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

系統別に腎泌尿器、内分泌、代謝、眼科、耳鼻咽喉科の代表的な疾患について必要な病態生理、症状、検査治療などについて理解する。

[授業内容・授業の流れ]

1	ホルモンのはたらきとその調節機構
2	甲状腺疾患、副甲状腺疾患
3	視床下部・下垂体疾患
4	肥満症とメタボリックシンドローム、尿酸代謝異常
5	糖尿病、脂質異常症
6	副腎疾患
7	耳鼻の構造と機能、耳鼻科疾患の症状・検査・治療
8	咽頭・喉頭の構造と機能、咽頭・喉頭疾患の症状・検査・治療
9	眼疾患 白内障 緑内障 網膜剥離 加齢黄斑変性
10	視力、色覚検査 看護における眼疾患の注意点
11	泌尿器科(解剖等)
12	泌尿器科(解剖等)
13	泌尿器科(解剖等)
14	泌尿器科(解剖等)
15	終講試験

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 (腎・泌尿器) 30点、 (内分泌) 25点 (代謝) 25点 (眼) 10点 (耳) 10点	受講上の注意:
--	---------

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑧ 腎泌尿器 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑥ 内分泌代謝 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑬ 眼科 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門基礎分野] 疾病論III	講師名	外部講師	授業形態 講義	時 期	後期
			実務経験有		単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

系統別に消化器外科、乳腺外科、脳外科、歯科、皮膚科、アレルギー膠原病の代表的な疾患について必要な病態生理、症状、検査治療などについて理解する。

[授業内容・授業の流れ]

1	脳神経機能と構造	
2	脳の解剖学的機能と症状の関連性(脳損傷の特徴含む)	
3	脳障害の症状(脳の自動調整・嚥下障害・発語・発声・言語障害・脳頭蓋内圧のコントロール)	
4	脳出血性疾患・閉塞性疾患	
5	消化器の構造と機能・症状と病態生理、消化器の検査と治療	
6	胃・食道・大腸・小腸・肛門の良性腫瘍、大腸の腫瘍性疾患	
7	肝・胆・脾の疾患	
8	乳腺疾患及び乳癌の診断・治療	
9	皮膚の構造と機能、皮膚疾患の症状検査・治療	
10	代表的な皮膚科疾患	
11	歯科、口腔①	
12	歯科、口腔②	
13	アレルギー・免疫について	
14	膠原病	
15	終講試験	

〈評価の方法〉

筆記試験の配点

(消化・乳) 35点、(脳外) 35点  
(歯) 10点 (皮膚) 10点  
(アレ・膠原病) 10点

受講上の注意:

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座	専門分野II	成人看護学⑤	消化器	医学書院
系統看護学講座	専門分野II	成人看護学⑨	女性生殖器	医学書院
系統看護学講座	専門分野II	成人看護学⑦	脳神経	医学書院
系統看護学講座	専門分野II	成人看護学⑯	歯・口腔	医学書院
系統看護学講座	専門分野II	成人看護学⑫	皮膚	医学書院
系統看護学講座	専門分野II	成人看護学⑪	アレルギー 膠原病 感染症	医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門基礎分野] 疾病論IV	講師名	外部講師	授業形態 講義	時期	後期
			実務経験有		単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

系統別に神経内科、精神科、血液・造血器、感染症の代表的な疾患について必要な病態生理、症状、検査治療などについて理解する。

[授業内容・授業の流れ]

1	パーキンソン病	
2	脳血管障害、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症 脊髄小脳変性症	
3	筋疾患、末梢神経疾患	
4	精神医学総論 不安障害	
5	統合失調症	
6	気分障害 (うつ病、多極性障害)	
7	精神科医療、統合失調症の理解	
8	まとめ	
9	血液内科 (血液の生理と造血のしくみ等)	
10	検査、診断と症候、病態生理	
11	疾患と治療の理解 (1)	
12	疾患と治療の理解 (2)	
13	感染症の看護を学ぶにあたって、感染症とは、検査・診断、治療	
14	疾患の理解、患者の看護 (感染予防など)	
15	終講試験	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 (神内) 20点、(精神) 40点 (血液) 30点 (感染) 10点	受講上の注意： ・予習復習をしっかりしてください
--	-----------------------------

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑦ 脳神経 医学書院

新体系 看護学全書 精神看護学②

精神障害をもつ人の看護 メディカルフレンド社

系統看護学講座 専門分野II 成人看護学④ 血液造血器 医学書院

系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑪ アレルギー 膜原病 感染症 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門基礎分野] 疾病論V	講師名	外部講師	授業形態 講義	時 期	後期
			実務経験有		単位数(時間数)	1 (26)

[授業目標]

系統別に小児科、産科、婦人科の代表的な疾患について必要な病態生理、症状、検査治療などについて理解する。

[授業内容・授業の流れ]

1	女性生殖器の構造と機能、症状とその病態生理	
2	産婦人科における診察・検査・処置・治療	
3	産婦人科における主な疾患の理解	
4	ハイリスク妊娠	
5	妊娠と胎児にみられる異常	
6	難産と帝王切開、産褥の異常と新生児の異常	
7	総論 染色体 先天異常症	
8	感染症	
9	循環器、呼吸器学	
10	血液疾患、腫瘍性疾患	
11	内分泌、アレルギー、腎臓	
12	神経、消化器	
13	終講試験	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 (小児) 50点、(産科) 50点	受講上の注意:
---	---------

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 小児臨床看護各論 医学書院  
新体系 看護学全書 母性看護学②  
マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メディカルフレンド社

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時 期	後期
	疾病論VI		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

リハビリテーションの理念を知り、リハビリテーションの実際を理解する。  
放射線の生体に及ぼす影響を学び、放射線を用いた検査、診療及び治療について学ぶ。  
診療における臨床検査の役割を理解し各検査の目的・意義について学ぶ。

[授業内容・授業の流れ]

1	リハビリテーション概念、リハビリテーション医療、廃用症候群	
2	リハビリテーションの評価、生活行動の再獲得に向けた支援(息をする)	
3	生活行動の再獲得に向けた支援(動く)	
4	生活行動の再獲得に向けた支援(記憶する、身だしなみを整える)	
5	生活機能全般に影響を及ぼす障害のある人への支援 (高次脳機能障害、精神障害)	
6	生活行動の再獲得に向けた支援(聞く(聴覚)聞く、話す)	
7	生活行動の再獲得に向けた支援(食べる、飲む)	
8	序章 第1章	
9	CT、MRI	
10	核医学、血管造影	
11	超音波、防護	
12	放射線治療	
13	検体検査の種類・意義(検体検査)	
14	生体検査の種類・意義(生体検査) 十症例の検査データ解釈	
15	終講試験	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 (PT) 15点、(ST) 15点 (OT) 15点、(検査) 15点 (放射線) 40点	受講上の注意： ・予習復習をしっかりしてください
---	-----------------------------

[使用テキスト・参考文献等]

新体系 看護学全書(別巻) リハビリテーション看護 メディカルフレンド社  
系統看護学講座 別巻 医療放射線医学 医学書院  
系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門基礎分野]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時 期	前期
	現代医療論		実務経験有			単位数(時間数)	1 (15)

【授業目標】

医学・医療の発展と進歩について学ぶ。特に現代医療を取り巻く社会の動向に关心を持ち、奈良県の地域医療における看護職の役割についても考えることができる

【授業内容・授業の流れ】

1	講義のテーマと目標、 現代医療論 講義の進め方 研究テーマの検討と決定(各班別)	
2	命を護るという仕事 「ヒトはどのように生命活動をおこなっているのか」 「ヒトの命を護るために」「ヒトが死なないために命を護る医療機器」	
3	命を救おう BLSの理論「一次救命処置とは」	
4	BLSの実践 胸骨圧迫、人工呼吸、AED、シミュレーション、チームBLS	
5	各班別 研究テーマの発表とディスカッション(発表最後に質問を作ること) (賛成と反対とが半々になるような、皆が迷う質問が望ましい) 「医学・医療の歩み」(ゲノム医療、再生医療)など 「健康と疾病」(生活と健康作り)など 「現代の医療」(チーム医療と看護師の役割)など 「現代医療の諸問題」 (自己決定権とインフォームドコンセント)(告知問題)(脳死と臓器移植) (死への対応と尊厳死)など	
6	ディスカッションとまとめ 「どんな看護師になりたいか考えよう」	
7	奈良県の医療提供体制について(特別講義)	
8	終講テスト(45分)…記述問題3題 予定	下川

〈評価の方法〉 テスト及び授業態度	受講上の注意: スライド講義、BLSは講義+実習、研究発表とディスカッション(研究発表は皆で役割を分担し、特に自班の発表内容は各人が全体の説明解説ができるように)
----------------------	---

【テキスト・参考文献等】

新体系 看護学全書  
健康支援と社会保障制度① 現代医療論 メディカルフレンド  
その他、インターネットなど何でも

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[ 専門基礎分野 ]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時 期	前期
						単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

1. 生活概念としての環境問題と健康問題をもとに、公衆衛生の歴史とその役割について考える。
2. 疾病構造と健康問題、高齢化、情報化社会における健康対策とその視点について考える。
3. 望ましい生活環境を構築するため、人間の存在に関わる健康の諸問題を自分の生活と関連付けて考える。また、日常生活の中で問題解決の方法を考える。

[授業内容・授業の流れ]

1	公衆衛生と健康
2	社会保障制度と医療経済
3	医療法と医療体制、保険診療
4	疫学研究のデザイン、統計解析の基礎
5	疫学と保健統計
6	感染症の動向と感染対策
7	ゲームで学ぶ公衆衛生
8	成人保健、がん対策
9	母子保健
10	高齢者保健
11	精神保健・福祉、災害保健
12	地域・学校・産業保健
13	食品・環境保健、国際保健
14	予備・テストについての説明
15	終講試験

〈評価の方法〉

- ① 筆記試験
- ② 授業内の演習レポート

受講上の注意:

生活環境と健康(公衆衛生学・疫学)は他の授業分野と密接に関わっており、国家試験にも頻出されている。ただし、内容は難しく授業だけでは理解できない場合は適宜質問を寄せるこ。

[使用テキスト・参考文献等]

公衆衛生がみえる メディックメディア

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野] 看護を取り巻く法律	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態 講義	時 期	前期
					単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

法の概念及び基本的仕組みを理解する。看護職に関する法律を学び、看護専門職としての責任を理解する。

[授業内容・授業の流れ]

1	法の概念 (A 法の概念 B 衛生法 C 厚生労働行政のしくみ) 福祉法 I (A 福祉の基盤)	
2	福祉法 II (B 児童分野 C 高齢分野 D 障害分野) 労働法と社会基盤整備 I (A 労働法)	
3	労働法と社会基盤整備 II (B 社会基盤整備など) 環境法 (A 環境保全の基本法 B 公害防止の法令 C 自然保護の法令)	
4	保健師助産師看護師法の目的・定義・免許など	
5	保健師助産師看護師法の業務・義務など	
6	医療過誤、看護師等の人材確保の促進に関する法律	
7	医療関係資格法	
8	医療法の目的・定義・人員配置基準・診療に関する諸記録など	
9	医療を支える法 (臓器の移植に関する法律、自殺対策基本法など)	
10	地域保健法、健康増進法など	
11	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律など	
12	母子保健法、児童福祉法など	
13	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律など	
14	社会保険に関する法律	
15	試験・解説	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 先生 (80点) 先生 (20点)	受講上の注意： 積極的に授業に参加し医療や看護に関する法律に关心をもつ
--	--

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	専門基礎分野	講師名	外部講師 (実務経験有)	授業形態	講義	時 期	前期
	暮らしを支える 社会保障制度と福祉					単位数 (時間数)	1 (30)

<授業目標>

- 1) 社会保障制度と福祉を理解する。
- 2) 社会福祉の分野とサービスを理解し、保険・医療・福祉の連携を学ぶ。

【授業内容・授業の流れ】

- 1) テキストを中心に授業を進め、併せて、日々の社会保障制度や福祉に関わる話題を、新聞記事や動画を使い、知識を深めてゆきます。
- 2) 看護師国家試験過去問出題傾向チェック

回	月 日	時 間	授 業 内 容
1	08/27 水	9:00~10:30	オリエンテーション: 社会福祉とは何か
2	09/17 水	9:00~10:30	第1章 社会保障制度と社会福祉
3	09/24 水	9:00~10:30	第2章 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向
4	10/01 水	9:00~10:30	第3章 医療保障
5	10/08 水	9:00~10:30	第4章 介護保障
6	10/15 水	9:00~10:30	第5章 所得保障
7	10/22 水	9:00~10:30	第5章 所得保障
8	10/29 水	9:00~10:30	第6章 公的扶助
9	11/05 水	9:00~10:30	第6章 公的扶助
10	11/12 水	9:00~10:30	第7章 社会福祉の分野とサービス
11	11/19 水	9:00~10:30	第7章 社会福祉の分野とサービス
12	11/26 水	9:00~10:30	第8章 社会福祉実践と医療・看護
13	12/03 水	9:00~10:30	第9章 社会福祉の歴史
14	12/10 水	9:00~10:30	まとめ
15	12/17 水	9:00~10:30	終講試験 (試験 45分+解説)

<評価の方法>

- ・終講テストを基本に、平素の授業態度等、総合的に判断します。

<受講上の注意>

- ・基礎的・基本的な知識習得を狙いとしていますので、授業中の理解と復習を怠らないようにしましょう。
- ・社会保障制度や社会福祉の理解は、あなた自身の生活に密着しています。
- ・日常のテレビ報道や新聞報道に关心を持ち、自分や家族生活に置き換えて考えてみましょう。

<使用テキスト・参考文献等>

- ・系統看護学講座 専門基礎分野「社会保障・社会福祉」 健康支援と社会保障制度 3 医学書院

## 授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野I]	講師名	専任教員	授業形態	講義演習	時 期	前期
	看護学概論		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

### 【授業目標】

1. 看護の役割と機能を理解する
2. 看護の主要概念(人間・環境・健康・看護)について考える
3. 我が国における看護の発展と今後の発展について理解する
4. 看護実践における倫理的問題について考える
5. 看護の提供の仕組みについて理解する
6. 広がる看護の活動領域を理解する

### 【授業内容・授業の流れ】

1	看護とは何か
2	看護の歴史的変遷について ナイチンゲールの功績から近代看護の成り立ちについて学習する ナイチンゲール以前の看護、ナイチンゲール以降の看護の発展について
3	さまざまな理論家による看護のとらえ方について学習する ヘンダーソン・ロイ・オレム・トラベルビー・ペプロウ
4	ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」
5	看護の役割と機能について学習する 看護ケアについて・看護実践に欠かせない要素 看護の継続性・多職種連携・協働について チーム医療に携わるさまざまな職種
6	看護の対象について学習する 人間の心と体を理解する・成長発達しつづける存在として人間を理解する
7	人間の暮らしについて学習する 生活者としての人間を理解する。看護の対象としての家族・集団・地域を理解する
8	健康とはなにか、健康をどのようにとられるべきかを理解する 障害とはなにか、障害をどのようにとらえるべきかを理解する
9	国民全体の健康と生活の全体像を、主要な公的統計の結果から把握する
10	我が国の中の看護の成立発展・看護基礎教育と継続教育
11	看護における倫理について 医療・看護をめぐる倫理的問題
12	看護提供の仕組みについて理解する、国際化と看護 災害看護
13	ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 GW まとめ
14	ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 グループ発表
15	筆記試験(45分)・まとめ

〈評価の方法〉 出席状況・受講態度 GWの取り組み・演習課題の提出状況: 5点 課題レポート提出「看護覚え書き」 5点 筆記試験: 90点	受講上の注意: ・授業、演習などでの私語は慎み、受講する ・GW:積極的に参加する。他者の意見を聞き入れ、自己の考えを論理的に述べる ・課題の提出は、決められた期日に提出すること
---	--

### 【使用テキスト・参考文献等】

- 系統別看護講座 専門分野I 看護概論 基礎看護学(医学書院)  
 日本看護協会 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン  
 「看護覚え書き」看護覚え書(第8版)(看護であること看護でないこと)  
 フロレンス・ナイチンゲール(著), 湯楨 ます(翻訳),

授業内容(シラバス) 2025年度 ( 27期生 2年生 )

授業科目	[ 専門基礎分野 ] 暮らしを支える 多職種連携	講師名	外部講師	授業形態	講義	時 期	後期
			実務経験有			単位数(時間数)	1 (15)

＜授業目標＞

多職種連携のためのマネジメントの実際について考え、医療チームの構成や構成員の役割分担と連携について学ぶ。

【授業内容・授業の流れ】

回	授業内容
1	医療チームの定義とその歴史 多職種連携に係る多職種連携の役割
2	各自調べてグループワーク その職種の強みについて グループ発表
3	連携が強く考えられる職種について。どの様な関わりがあるか 連携に必要な事柄 多職種連携に必要な技術
4	多職種連携に必要な技術 チームマネジメントの基礎知識・高める技術
5	選手あてゲーム 情報収集／コミュニケーション能力／チーム力
6	病院（施設） チームの機能に応じたチームマネジメント・病棟の特徴
7	事例検討 情報収集・阻害因子・課題・総合的な援助の方針／まとめ
8	終講試験（45分）

＜評価の方法＞

筆記試験  
グループワーク参加度  
出席状況  
言葉の意味の学習

＜受講上の注意＞

グループワークを多く含みます。積極的に参加しましょう。

＜使用テキスト・参考文献等＞

多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル 医学書院  
多職種連携教育 中外医学社  
よくわかる退院支援 学研出版

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	外部講師・専任教員	授業形態	講義実習	時 期	後期
	看護倫理		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

【授業目標】

看護倫理の基本的概念を理解し、専門職としての倫理的判断に基づく行動を学ぶ

【授業内容・授業の流れ】

1	看護倫理とは：看護倫理を学ぶ意義、歴史、看護倫理と歴史 看護倫理、看護倫理の5原則	
2	看護専門職としての倫理：看護倫理原則と看護実践、看護実践とジレンマ	
3	倫理綱領について	
4	倫理綱領について	
5	意思決定を促す看護	
6	医療者の3つの倫理的姿勢	
7 8	生命倫理と守秘義務・個人情報保護	
9 10	実習から倫理を考える、災害時と倫理を考える	
11 12	事例から倫理を考える	
13 14	事例から倫理を考える	
15	終講試験、解説	

〈評価の方法〉

- ・筆記試験 80点  
レポート課題

受講上の注意：

- ・積極的・主体的に授業に参加する
- ・予習、復習を怠らない
- ・グループワークは積極的に参加する

【使用テキスト・参考文献等】

系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野I]	講師名	専任教員	授業形態	講義演習	時 期	後期
	看護過程・看護診断		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

【授業目標】

1. 看護過程とは何かを理解する
2. 看護過程を展開するための考え方を理解する
3. 看護過程の段階を理解する
4. 事例を用いて、看護展開をする

【授業内容・授業の流れ】

1	看護過程とは何か、看護過程を展開する目的 看護過程の構成要素、構成要素の関係性 看護過程を用いることの利点 看護記録 個人情報の取り扱い	<講義>
2	看護過程を展開する基盤となる考え方 問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的配慮と価値判断、リフレクション	<講義>
3	アセスメント(情報収集)	<講義・GW・発表>
4	看護理論に基づいたアセスメントの枠組み(ゴードン・ヘンダーソン) 情報収集の方法、情報の種類、情報が持つ意味	
5	アセスメント(情報の分析)	<講義・GW>
6	知識の活用、理論の活用、情報分析の具体的方法 情報の分析のために必要な視点	
7	全体像の把握 全体像とは、関連図	<講義・GW>
8	看護問題の明確化	
9	関連図の共有	<発表>
10	看護問題の明確化 看護問題の優先順位、プロブレムリスト、共同問題	<講義・GW>
11	看護計画の立案 看護目標：期待される成果の明確化と表し方 実施：実施と記録	
12	評価 評価をする意味・時期・進め方	<講義・個人ワーク>
13	看護サマリー	
14	標準看護計画、クリティカルパス	<講義>
15	これまでの講義の復習・筆記試験(45分)	

〈評価の方法〉	受講上の注意：
筆記試験	<50点>
課題	
出席状況	
取り組み姿勢	<50点>
〔使用テキスト・参考文献等〕	
基礎看護技術I(医学書院)	

授業内容(シラバス) 2025年度 ( 26期生 3年生 )

授業科目	[ 専門分野 ]	講師名	専任教員	授業形態	講義	時期	年間
	看護研究		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

[授業目標]

看護における研究の意義を理解するとともに、研究の基盤と研究的態度を養い、看護を科学的に展開する能力を養う。

自己の看護を振り返り考察する力を養う。

[授業内容・授業の流れ]

1	授業計画について、看護研究の意義
2	研究全体の流れについて、研究疑問について
3	文献検索について
4	具体的な研究の進め方、ケーススタディについて
5	倫理的配慮、研究計画書の書き方
6	計画の共有
7	ケーススタディ論文の作成
8	プレゼン方法について、抄録の書き方
9	ケーススタディ準備と予行
10	ケーススタディ準備と予行
11	ケーススタディ発表
12	ケーススタディ発表
13	ケーススタディ発表
14	ケーススタディ発表
15	掲載論文の書き方

〔評価の方法〕

発表  
掲載論文  
合わせて 100 点

受講上の注意 :

[使用テキスト・参考文献等]

看護学生のためのケース・スタディ メディカルフレンド社

# 授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義演習	時 期	後期
	ヘルスアセスメント		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

## 【授業目標】

ヘルスアセスメントに必要な技術を習得し、対象患者の全体を概観することができる

## [授業内容・授業の流れ]

担当教員

1	ヘルスアセスメントとは <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントの意義と目的</li> <li>看護における観察とは</li> <li>問診の技術、健康歴の聴取（主訴、現病歴、既往歴、生活状況）</li> </ul>	
2	バイタルサインの観察とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> <li>体温（体温測定の意義 体温調整のメカニズムと影響因子 体温測定の方法）</li> <li>脈拍（脈拍調整のメカニズムと影響因子 測定部位と測定方法）</li> </ul>	
3	バイタルサインの観察とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸（呼吸調整のメカニズムと影響因子 呼吸の性状と種類 測定方法とポイント）</li> <li>血圧（血圧調整のメカニズムと影響因子 測定方法とポイント）</li> </ul>	
4	学内演習	
5	原理原則に基づいたバイタルサイン測定の方法（体温・脈拍・呼吸・血圧）	
6	フィジカルアセスメントと心理的・社会的アセスメント <ul style="list-style-type: none"> <li>フィジカルアセスメントの原則</li> <li>フィジカルアセスメントの基本原則</li> <li>心理的・社会的アセスメント</li> </ul>	
7	系統別フィジカルアセスメント 頭頸部と感覚器 外皮系	
8	系統別フィジカルアセスメント 呼吸器系	
9	系統別フィジカルアセスメント 循環器系	
10	系統別フィジカルアセスメント 消化器系	
11	系統別フィジカルアセスメント 運動器系	
12	系統別フィジカルアセスメント 神経系	
13	学内演習	
14	フィジカルアセスメント フィジカルアセスメント	
15	終講試験 45分	

## 〈評価の方法〉

筆記試験

学内演習における取り組み状況  
(事前学習や身だしなみを含む)

## 受講上の注意：

- 授業、演習などでの私語は慎み、受講する
- 積極的に質問をして学びが深まるようにしてください
- 演習時には、規定の身嗜みに必ず整えて参加してください

## [使用テキスト・参考文献等]

医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 I 基礎看護学 2

発行 2025年2月1日 第19版第3刷

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[ 専門基礎分野 ] 基礎看護技術 I	講師名	専任教員 実務経験有	授業形態 講義演習	時期	前期
						1 (20)

[授業目標]

感染成立の要件、スタンダードプリコーション、感染経路別予防について学習し、感染防止の技術を習得する

[授業内容・授業の流れ]

1	感染予防の意義 感染の成立および感染予防の原則と方法 ・感染の成立因子　・感染予防の原則　・感染予防の方法
2	感染予防対策 ・スタンダードプリコーション ・感染経路別予防策
3	感染予防策 ・院内感染予防のための管理体制　・感染における看護師の責務と役割
4	学内演習 スタンダードプリコーション
5	手指衛生（日常的手洗い・衛生学的手洗い・手術的手洗い）個人防護具の使用
6	感染源への対策 1) 減菌・消毒の意義 2) 減菌・消毒の方法 感染経路の遮断・隔離法
7	無菌操作 1) 攝子・鉗子の取り扱い 2) 減菌物の取り扱い 3) 感染性廃棄物の取り扱い 4) 針刺し事故の防止・事故後の対応
8	学内演習 減菌手袋の装着
9	減菌操作・減菌包の取り扱い
10	終講試験（筆記試験）

〈評価の方法〉 ・筆記試験 80 点 ・ループリック評価 20 点 (事前学習・演習中の態度を含む) ・2/3 以上の出席 ・課題の提出状況	受講上の注意： ・積極的・主体的に授業に参加する ・学習補完教材で事前学習を行い演習に臨む ・身だしなみを整え、清潔なユニホームで演習に臨む ・私語を慎み主体的に取り組む ・積極的にグループワークに参加する
---	--

[使用テキスト・参考文献等]

基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院  
基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	専門分野	講師名	専任教員	授業形態	講義演習	時 期	後期
			実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

【授業目標】

- 対象者の療養環境を整える技術を習得する
- ボディメカニクスを活用し、活動と休息を助ける看護技術を習得する
- 対象者の苦痛の緩和、安全確保の技術を習得する
- (転倒・転落のリスクアセスメントや具体的対策を考えることができる)

【授業内容・授業の流れ】

1	環境とは?
2	
3	活動と休息の基礎知識と意義 療養環境について考える
4	療養環境を整える援助技術 ボディメカニズムを用いたベッドメイキング
5	環境整備とベッドメイキングの準備 各種寝具の取り扱い
6	【演習】 ベッドメイキング
7	
8	安全な姿勢・体位とは? 基本的活動の援助 歩行介助・車椅子・ストレッチャー
9	【演習】 ボディメカニクスを用いた安全・安楽な体位変換
10	安全・安楽な移乗・移送
11	療養環境を整える援助技術 安全・安楽な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)
12	【演習】 シーツ交換
13	【演習】 安全・安楽な療養環境について考える
14	
15	終講試験 45分

〈評価の方法〉 出席状況 筆記試験 講義・演習における態度面 課題等の提出状況	受講上の注意: ・授業、演習などでの私語は慎み、受講する ・演習時、必ず指定された身嗜みで参加をしてください ・グループワークなどの協同学習では、お互いの思いや考えを尊重しながら円滑に進められるように配慮しましょう ・積極的に質問をして学びが深まるようにしてください ・事前学習や課題は必ず行ったうえで聴講してください
---	--

【使用テキスト・参考文献等】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術II 基礎看護学3

## 授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義 演習	時 期	後期
	基礎看護学Ⅲ		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

## 【授業目標】

対象に応じ目的と方法を理解し、患者の安全・安楽に考慮した清潔・衣生活の援助を習得する。

### [授業内容・授業の流れ]

1	清潔とは？
2	対象に応じた清潔援助の方法
3	清潔援助の方法：口腔ケア (演習)口腔ケア
4	清潔援助の方法：入浴 (演習) 適切なお湯の温度は何度？
5	清潔援助の方法：全身清拭・寝衣交換
6	演習
7	全身清拭・寝衣交換
8	清潔援助の方法：陰部洗浄
9	演習 陰部洗浄
10	生活援助の方法：手浴・足浴
11	演習 ベッド上での手浴・足浴
12	清潔援助の方法：洗髪
13	演習
14	ベッド上での洗髪
15	終講試験 45分

### 〈評価の方法〉

### 出席状況

## 筆記試驗

## 講義・演習における態度面

### 課題等の提出状況

### 受講上の注意：

- ・授業、演習などの私語は慎み、受講する
  - ・演習時、**必ず指定された身嗜み**で参加をしてください
  - ・グループワークなどの協同学習では、お互いの思いや考えを尊重しながら円滑に進められるように配慮しましょう
  - ・積極的に質問をして学びが深まるようにしてください
  - ・事前学習や課題は必ず行ったうえで聴講してください

### [使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 3

授業内容(シラバス) 2025度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義実習	時 期	後期
	基礎看護技術IV		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

【授業目標】

人間にとっての「食事」の意義を理解し、患者に応じた食事援助の方法を学ぶ

排泄の意義とメカニズム・アセスメントの方法を理解し、患者の安全・安楽に考慮した排泄援助を習得する。

【授業内容・授業の流れ】

1	食事の援助の基本知識 ①栄養状態のアセスメント②水分・電解質バランスのアセスメント③摂食・嚥下のアセスメント④食欲のアセスメント⑤摂食行動のアセスメント⑥患者の認識・行動のアセスメント
2	医療施設で提供される食事の種類と形態 食事摂取の介助(援助の基礎知識・援助の実際)
3 4	(学内演習) 食事介助(嚥下障害のある患者を除く)
5	摂食・嚥下訓練(援助の基礎知識・摂食・嚥下障害のアセスメント・援助の実際)・嚥下検査 非経口の栄養摂取の援助・経管栄養(援助の基礎知識) 援助の実際(経鼻経管栄養法・胃瘻法・中心静脈栄養法)
6	学内演習
7	経鼻経管栄養法(胃管插入)胃管法
8	排泄援助の基礎知識(自然排尿・自然排便)・排泄器官の機能と排泄のメカニズム ①排尿・排便のアセスメント②移動動作のアセスメント③心理・社会的状態のアセスメント・自然排尿・自然排便の介助(トイレにおける援助・ポータブルトイレにおける援助・床上排泄援助)
9	学内演習
10	自然排尿介助(床上排泄援助)
11	自然排尿・排便が困難な場合の基礎知識と援助の実際・導尿(一時的導尿・持続的導尿) 排便を促す援助・便通改善のためのケア(浣腸・摘便)、ストーマ管理
12	学内演習
13	導尿(一時的)
14	学内演習 グリセリン浣腸
15	終講試験 45分

〈評価の方法〉

- ・筆記試験  
(食事: 50点 排泄: 50点)
- ・2/3以上の出席
- ・提出物状況

受講上の注意:

- ・積極的・主体的に授業に参加する
- ・予習、復習を怠らない
- ・グループワークは積極的に参加する
- ・学内実習には真面目に主体的に取り組む

【使用テキスト・参考文献等】

基礎看護技術 I 基礎看護学②(医学書院)

基礎看護技術 II 基礎看護学③(医学書院)

学習補完教材(eナーストレーナー)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義	時期	後期
	基礎看護技術V		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

## [授業目標]

生体機能管理技術、診察、検査、処置の介助技術を習得する  
呼吸・循環を整える技術を習得する  
救命救急処置技術を習得する

## [授業内容の流れ]

1	★ 呼吸を整える技術 (酸素摂取予備力)	講義
2	★COPD の患者の診察・検査・処置の介助技術	講義
3	静脈血採血・動脈血採血の介助・X線撮影	講義
4	スパイロメーター・パルスオキシメーター・酸素吸入療法	講義
5	ネブライザー吸入・体位ドレナージ・吸引 (口腔・鼻腔・気管チューブ)	講義
6	【静脈内採血・検体の取り扱い】	学内実習
7		
8	【口腔内吸引/酸素摂取予備力モニター】	学内実習
9		
10	★心原性脳梗塞の患者の診察・検査・処置の介助技術	講義
11	心電図・心電図モニター・CT・MR・心エコー	講義
13	胸腔内低圧持続吸引の看護	講義
12	【酸素吸入療法・酸素ボンベの取り扱い・ネブライザー吸入】	学内実習
14	【BLS (トリアージ・胸骨圧迫)】	学内実習
15	筆記試験 (100 点)	テスト

## &lt;評価の方法&gt;

筆記試験 (100 点)

## 受講上の注意:

- ・今回紹介する技術から、国家試験の問題が多数出題されています。  
より確実に学習されることを強くお勧めします

## [使用テキスト・参考文献等]

- ・生活調整を必要とする人の看護 I 中央法規
- ・人体機能学入門 メジカルフレンド社
- ・系統看護学講座 (解剖生理学・呼吸器・循環器・脳・神経・運動器) 医学書院
- ・基礎・臨床看護技術 医学書院
- ・臨床看護技術ガイド 照林社
- ・ねじ子のヒミツ手技 インプレス

授業内容(シラバス) 2025度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義実習	時 期	後期
	基礎看護技術VI		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

【授業目標】

治療・処置における看護の役割を理解するとともに、看護実践のための基礎的技術を習得する  
医療機器・器具の原理を理解し、安全に取り扱うための方法を習得する

【授業内容・授業の流れ】

1	与薬の基礎知識 (薬物の基礎知識)、与薬援助における看護師の責務 薬物などの管理 (毒薬、劇薬、麻薬)
2	与薬援助の基礎知識と援助の実際 (経口・口腔内、吸入、点眼、点鼻、経皮的、直腸内)
3	注射の基礎知識と実施上の責任
4	注射法① (皮下注射)
5 6	[学内実習] 皮下注射
7	注射法② (筋肉内注射)
8 9	[学内実習] 筋肉内注射
10	注射法③静脈内注射、点滴静脈内注射、点滴静脈内注射における混注
11	注射法④輸液速度の調整 (自然滴下・輸液ポンプ・シリンジポンプ) 中心静脈カテーテル留置の介助と輸液ライン交換と管理
12 13	[学内実習] 点滴静脈内注射、混注
14	輸血の基礎知識・援助の実際
15	終講試験 45分

〈評価の方法〉

- ・筆記試験
- ・課題提出
- ・学内実習評価
- ・出席状況など

受講上の注意:

- ・積極的・主体的に授業に参加する
- ・予習、復習を怠らない
- ・グループワークは積極的に参加する
- ・学内実習には身嗜みを整えて真面目に主体的に取り組む

【使用テキスト・参考文献等】

基礎看護技術II 基礎看護学3(医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義実習	時 期	前期
	基礎看護技術VII		実務経験有			単位数(時間数)	1(20)

【授業目標】

- 創傷管理の基本知識を学び創傷処置を習得する
- 褥瘡の基本知識を学び、褥瘡予防ケアを習得する
- 二次救命救急処置技術を習得する
- 死の看取りのケアを習得する

【授業内容・授業の流れ】

1	創傷管理の基礎知識（創傷と治癒過程） 皮膚の再生と瘢痕治癒・創傷の治癒過程とそのメカニズム 創傷治癒のための環境づくり（創面環境調整・創の消毒と洗浄） 創洗浄と創保護の基礎知識と援助の実際
2	褥瘡予防の基礎知識 褥瘡発生要因とリスクアセスメント（ブレーデンスケール） 援助の実際：臥位・座位での予防（体圧分散マットレス・体位変換・除圧・基本姿勢の保持）
3	(学内実習)・観察とアセスメント、創洗浄、創保護、ドレーン挿入部の処置
4	・褥瘡予防援助（臥位での予防・座位での予防）
5	包帯法の基礎知識（包帯の種類・巻軸帯の巻き方） 包帯法の動画視聴 三角巾を用いた上肢の固定方法
6	(学内実習)・巻軸帯の巻き方、三角巾を用いた上肢の固定方法
7	救急救命処置の基本（救急対応の考え方・急変時における初期対応）院内急変時の対応 心肺蘇生法の基礎知識（一次救命処置の実際）
8	(学内実習)・二次救命処置の基本（挿管介助） ・止血法（直接的圧迫法・間接的圧迫法）
9	死の看取りの援助 死にゆく人と周囲の人々へのケア (死にゆく人のもつ苦痛とその対処・家族の心理とケアの必要性) グリーフケア 死後の処置の基礎知識と援助の実際（死亡の確認後の援助、患者のお見送り）
10	終講試験
評価の方法	受講上の注意： ・積極的・主体的に授業に参加する ・実習補完教材で事前学習を行い演習に臨む ・積極的にグループワークに参加する ・身だしなみを整え、清潔なユニフォームで演習に臨む
使用テキスト・参考文献など	基礎看護技術II 基礎看護学③(医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	〔専門分野〕	講師名	外部講師	授業形態	時 期	後期
	地域の暮らしを支える看護		実務経験有		単位数(時間数)	1 (15)

【授業目標】

1. 公衆衛生、公衆衛生看護とは何かについて理解できる。
2. 地域における公衆衛生看護の実践活動について理解できる。
3. 「地域」「公衆衛生」の視点をもった看護活動について思考できる。

【授業内容・授業の流れ】

1	第1~2章 公衆衛生のエッセンス、公衆衛生の活動対象 (p16-62)	
2	第3章 公衆衛生のしくみ (p64-90)	
3	第8章 地域における公衆衛生の実践 公衆衛生看護とは、母子保健 (p194-222)	
4	第8章 地域における公衆衛生の実践 成人保健、高齢者保健 (p222-262)	
5	第6章 感染症とその予防対策 (p150-176)	
6	第8章 地域における公衆衛生の実践 障害者保健・難病保健 (p286-303)	
7	第8章 地域における公衆衛生の実践 精神保健 (p262-279)	
8	終講試験 45分	

〈評価の方法〉 授業時的小レポート・小テスト (30%) 終講試験 (70%)	受講上の注意： 今、看護師に求められている「地域」「公衆衛生」の視点を修得していきます。
---	---

【使用テキスト・参考文献等】

系統看護学講座 公衆衛生-健康支援と社会保障制度2 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 ( 28期生 1年生 )

授業科目	[ 専門分野 ]	講師名	外部講師	授業形態	講義GW	時 期	後期
	健康と暮らしを支える看護		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

[授業目的]

看護の対象である人々の暮らしを理解し、健康と関連させ看護の実践につなげる

[授業目標]

- 1.暮らしと健康との関連性について理解できる
- 2.暮らしを支える地域・在宅看護が理解できる
- 3.地域・在宅看護を支える仕組みが理解できる
- 4.これからの暮らしを支える看護がイメージできる

[授業内容・授業の流れ]

回数	授業内容	授業方法
1	講義オリエンテーション 暮らしと健康、地域について	講義
2	人々の暮らしと健康を中心に地域を理解する①	GW/講義
3	人々の暮らしと健康を中心に地域を理解する②	GW/講義
4	人々の暮らしと健康を中心に地域を理解する③	GW/講義
5	人々の暮らしと健康を中心に地域を理解する④	GW/講義
6	地域包括ケアシステムと地域共生社会について	GW
7	生活と健康を支えるケア	講義
8	地域・在宅看護について①	講義
9	地域・在宅看護について②	講義
10	地域・在宅看護について③	講義
11	地域・在宅看護を支えるしくみ	講義
12	地域・在宅看護と介護予防	講義
13	地域・在宅看護におけるリスクマネジメント	講義
14	地域・在宅看護における多職種連携・協働	講義
15	筆記試験	

「評価の方法」

筆記試験 70% 授業内発表 10%  
 グループ討議の参加状況 10%  
 課題レポートの提出 10%

「受講上の注意」

- ・授業中は私語を慎む
- ・授業中は許可なく携帯電話を使用しない
- ・グループ討議には積極的に参加する

[使用テキスト・参考文献等]

地域・在宅看護の基盤 医学書院

参考文献：地域・在宅看護論 メディカルフレンド社  
 その他参考文献・引用文献は講義の中で紹介する

## 授業内容(シラバス)

2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	〔専門分野〕 暮らしの場で行われる看護Ⅰ	講師名	外部講師・ 専任教員	授業形態 講義 GW演習	時 期	前期
			実務経験有			1 (30)

## 【授業目的】

在宅療養者と家族を支える看護の実際が理解できる

## 【授業目標】

在宅療養生活を支える基本的な技術を習得できる

暮らしの場における安全と健康危機管理について理解できる

## [授業内容・授業の流れ]

回数	授業内容	担当
1	訪問看護技術(家庭訪問の意義・目的)	
2	在宅療養生活を支える基本的な技術①(コミュニケーション)	
3	在宅療養生活を支える基本的な技術②	
4	(在宅におけるアセスメント技術: フィジカルアセスメント)	
5	在宅療養生活を支える基本的な技術③	
6	(家屋環境整備(転倒転落・火災)、福祉用具)	
7	在宅療養生活を支える基本的な技術④(在宅における感染防止)	
8	在宅療養生活を支える基本的な技術⑤(訪問時マナー演習)	
9		
10		
11	在宅療養生活を支える基本的な技術⑥ (生活リハビリテーション、閉じこもりの予防)	
12	暮らしの場における安全と危機管理	
13	(転倒・転落予防、熱中症予防、独居高齢者の防災について校外ボランティア活動の発表)	
14		
15	終講試験 解説	

## 〔評価の方法〕

筆記試験 60 点

演習: 15 点

グループ学習(校内外: 25 点)

## 受講上の注意:

積極的に授業に参加する

グループ学習や演習は主体的に実施する

## [使用テキスト・参考文献等]

医学書院 地域・在宅看護の実践 (地域・在宅看護論 2)

(参考) ナーシング・グラフフィカ 地域療養を支える技術 メディカ出版

(参考) 高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン 2019 日本老年医学会

(参考) 医療福祉総合ガイドブック 2019 年度版 NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会

(参考) 在宅看護過程 関連図で理解する 第 2 版 メディカルフレンド社

(参考) 宇都宮宏子(編) 退院支援ガイドブック「これまでの暮らし」「そしてこれから」をみすえてかかわる 学研プラス

## 授業内容(シラバス)

2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	〔専門分野〕 暮らしの場で行われる看護Ⅱ	講師名	専任教員 実務経験有	授業形態	講義	時 期	後期
						単位数(時間数)	1 (30)

## 【授業目標】

訪問看護サービスの仕組みと提供、継続看護について理解できる  
在宅療養における病状期や疾患に応じた看護が理解できる  
対象に応じた在宅看護が理解できる

## 【授業内容・授業の流れ】

回数	授業内容	担当
1	訪問看護サービスの仕組みと提供	
2	療養移行支援の意義と目的、プロセス、地域医療構想	
3	地域包括ケアシステム、ケアマネジメントの意義 ケアプランの検討	
4	在宅療養期における病状期に応じた看護① ALS 療養者	
5	療養移行期、慢性期、急性増悪期にある療養者 (事例検討: GW)	
6	療養移行における意思決定支援 (ディベート)	
7	在宅療養期における病状期に応じた看護② COPD 療養者 療養移行期、慢性期、急性増悪期にある療養者	
8	地域・在宅看護と小児ケア児の概要及び理解 医療的ケア児を支えるケアシステム	
9	医療的ケア児への看護 事例展開 (GW)	
10	地域・在宅看護と認知症ケア (認知症ケアシステム、社会資源)	
11	認知症療養者の家族支援、地域包括ケアシステム 事例展開	
12	地域・在宅看護と精神障害者ケア 精神障害の理解と看護 (統合失調症の特徴)	
13	地域・在宅看護と難病ケア① 難病療養者の支えるケアシステム、事例展開 (GW)	
14	地域・在宅看護と難病ケア② パーキンソン病の療養者の事例展開	
15	終講試験 解説	

## 〔評価の方法〕

筆記試験: 80 点

演習: 10 点

グループ学習: 10 点

## 受講上の注意:

積極的に授業に参加する

演習は主体的に実施する

## 【使用テキスト・参考文献等】

医学書院 地域・在宅看護の実践 (地域・在宅看護論 2)

(参考) ナーシング・グラフフィカ 地域療養を支える技術 メディカ出版

(参考) 高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン 2019 日本老年医学会

(参考) 医療福祉総合ガイドブック 2019 年度版 NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会

(参考) これならわかる (スッキリ図解) 障害者総合支援法 第 2 版 翔泳社

(参考) 宇都宮宏子 (編) 退院支援ガイドブック 「これまでの暮らし」「そしてこれから」をみすえてかかわる 学研プラス

## 授業内容(シラバス)

2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	外部講師・専任教員	授業形態	講義	時 期	後期
	暮らしの場で行われる看護III		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

## 【授業目標】

在宅における援助技術について習得できる

在宅看護における安全と健康危機管理について理解できる

対象に応じた在宅看護が理解できる

## 【授業内容・授業の流れ】

回数	授業内容	担当
1	生活を支える技術と医療ケア（食事・栄養の援助） 経管栄養法・中心静脈栄養法・経口摂取の援助	
2	生活を支える技術と医療ケア（排泄の援助） 排泄のアセスメント、排泄コントロール、ストマ管理	
3	生活を支える技術と医療ケア（清潔の援助） 入浴・シャワー浴・清拭・洗髪・口腔ケアの援助	
4	生活を支える技術と医療ケア（移乗・移送の援助） 福祉用具の活用、ベットからの立ち上がり・車いす移乗）	
5	生活を支える技術と医療ケア（呼吸管理、呼吸のアセスメント） 呼吸リハビリテーション・在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法の援助	
6	生活を支える技術と医療ケア（褥瘡管理、褥瘡のアセスメント） 褥瘡予防・褥瘡処置	
7	生活を支える技術と医療ケア (服薬管理、服薬のアセスメント)	
8	生活を支える技術と医療ケア (苦痛の緩和・安楽確保に関する技術)	P171～173
9	在宅療養期における病状期に応じた看護 がん患者の療養支援（緩和ケア）	P245～248
10	地域・在宅看護とエンド・オブ・ライフケアのアプローチ	
11	(緩和ケア、看取り、死後の処置、グリーフケア)	P330～336
12	生活を支える技術と医療ケア：演習	
13	(在宅での洗髪、褥瘡評価、臥床から浴槽までの移動介助)	
14		
15	試験・解説	

## 〈評価の方法〉

筆記試験の配点

先生 (40点)

先生 (50点)

先生 (10点)

## 受講上の注意：

積極的に授業に参加する

演習は主体的に実施する

## 【使用テキスト・参考文献等】

医学書院 地域・在宅看護の実践 (地域・在宅看護論2)

(参考) メディカ出版：ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術

(参考) 医療福祉総合ガイドブック 2019年度版 NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会

(参考) これならわかる(スッキリ図解) 障害者総合支援法 第2版 翔泳社

## 授業内容(シラバス)

2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義	時 期	後期
	療養生活を送る人と家族の看護		実務経験有		単位数(時間数)	1 (15)	

## 【授業目的】

在宅療養者と家族を支える看護の実際が理解できる

## 【授業目標】

1. 在宅看護における安全と健康危機管理について理解できる
2. 在宅における援助技術について習得できる
3. 対象に応じた在宅看護が理解できる
4. 在宅看護における看護過程について、演習を通して理解できる

## 【授業内容・授業の流れ】

回数	授業内容
1	在宅における看護過程の考え方と展開について
2	事例紹介 事例について事前の学習(障害された部位の解剖生理学、病態生理学、一般的な看護) 情報整理
3	情報の分析・解釈 関連図、課題の抽出
4	課題解決に向けた計画立案、援助計画をGWの実施
5	GWで考えた援助計画発表、援助計画の修正
6	訪問看護演習 対象事例の看護援助、振り返り
7	訪問看護演習 対象事例の看護援助、振り返り
8	終講試験(課題レポートの提出)

## 〈評価の方法〉

事例展開提出物：  
ループリック評価 80点  
訪問看護演習： 20点

## 受講上の注意：

- ・積極的に授業に参加する
- ・身だしなみを整えて、看護実践する

## 【使用テキスト・参考文献等】

(参考) 医学書院 地域・在宅看護の実践 (地域・在宅看護論2)

(参考) メディカ出版：ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア

(参考) 在宅看護過程 関連図で理解する 第2版 メジカルフレンド社

## 授業内容 (シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[ 専門分野 ]	講師名	専任教員	授業形態	講義	時期	後期
	成人看護学 I		実務経験有			単位数 (時間数)	1 (30)

### 【授業目標】

- 成人期のライフサイクルにおける成長発達を理解する  
成人看護の特徴を理解する  
成人看護に使用される理論について学習する

### 【授業内容・授業の流れ】

1	成人看護学の概要とライフサイクル
2	成長発達の特徴と健康観
3	成人各期の特徴と健康問題
4	成人保健の動向
5	生活習慣と職業に関する健康障害
6	健康障害の段階に応じた看護
7	健康障害の特徴に応じた看護
8	チーム医療推進のための多職種連携と社会資源の活用
9	成人看護における保健・医療・福祉政策
10	成人看護学に活用される理論・モデル①
11	成人看護学に活用される理論・モデル②
12	成人看護における倫理と意思決定支援
13	成人期の対象理解① 学びの図解
14	成人期の対象理解② 学びの発表
15	終講試験+解説

<p>〈評価の方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・筆記試験</li></ul>	<p>受講上の注意 :</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業、GWには積極的に取り組むこと</li></ul>
<p>[使用テキスト・参考文献等]</p> <p>成人看護学概論 (ヌーベルヒロカワ)</p>	

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野] 成人看護学II	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態 講義	時 期	後期
					単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

- 救急患者の特徴、看護の役割と方法が理解できる。
- 集中治療下にある患者の看護ができる。
- 周手術期患者の看護が理解できる。
- 患者を取り巻く人的環境への看護が理解できる。

[授業内容・授業の流れ]

1	解剖、症状に対する看護	
2	手術療法を受ける患者の看護	
3	腸・腹膜疾患患者の看護、ストーマケア	
4	肝臓・胆嚢・膵臓の手術を受ける患者の看護	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急看護の概念 救急看護の定義・役割・展開</li> <li>救急患者の特徴、家族の特徴</li> <li>救急看護を受ける患者の看護 観察とアセスメントの考え方 緊急性と重症度(院内トリアージ)</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急患者のアセスメント・全身と外観、呼吸状態、循環状態のアセスメント</li> <li>救急患者の主要病態と看護(1)</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急患者の主要病態と看護(2)</li> </ul>	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急領域における家族看護</li> </ul>	
9	女性生殖器疾患患者の特徴と理解 乳房疾患患者の看護	
10	女性生殖器疾患患者への看護師の役割の高まり 乳房の手術を受ける患者の看護	
11	手術療法について、手術室の環境、医療安全について	
12	意思決定支援、術前検査の詳細、DAM、術前訪問について	
13	手術看護、入室～退室まで 麻酔、体位、体温管理など	
14	術後管理、全身管理、ドレーン管理、早期離床など	
15	終講試験	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 (救急) 30点、(手術) 30点 (消化器) 30点 (乳腺) 10点	受講上の注意 :
---	----------

[使用テキスト・参考文献等]

- 日本麻酔科学会 周手術期管理チームテキスト 第3版
- 周手術期管理ナビゲーション 医学書院
- 成人看護学 周手術期看護論 ヌーベルヒロカワ
- ナースのためのやさしくわかる手術看護 ナツメ社 第7刷
- 周手術期看護ガイドブック 中央法規 第11刷
- 系統看護学講座 別巻 救急看護 医学書院 「参考」標準救急医学 医学書院
- 成人看護学9 女性生殖器 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	外部講師	授業形態	時 期	前期
	成人看護学III		実務経験有		講義	単位数(時間数)
						1 (30)

[授業目標]

循環機能障害、呼吸機能障害、栄養摂取、消化機能障害、運動機能障害のある患者と家族の看護を学び、アセスメントの意義や方法を理解し、回復に向けた援助方法を学ぶ

[授業内容・授業の流れ]

1	呼吸器系のフィジカルアセスメント、肺疾患看護（肺炎、喘息等）	
2	呼吸器疾患の主な症状のアセスメントと看護（呼吸困難・咳嗽・喀痰・咯血・血痰・胸痛） 慢性閉塞性肺疾患の症状とアセスメント・看護	
3	呼吸器疾患の治療や処置に対する看護 (酸素療法・気管支鏡・手術・胸腔ドレナージ・人工呼吸器・NPPV など)	
4	薬物療法を受ける患者の看護	
5	栄養・食事療法を受ける患者の看護	
6	腸・腹膜疾患患者の看護	
7	肝臓・胆嚢疾患患者の看護	
8	運動器疾患をもつ患者の経過と看護 援助のための主な知識と技術	
9	症状に対する看護、検査、診断を受ける患者の看護 保存療法を受ける患者の看護	
10	手術を受ける患者の看護 疾患をもつ患者の看護	
11	虚血性心疾患の看護	
12	周術期の看護	
13	症状別、心不全の看護	
14	ペースメーカーの看護、不整脈	
15	終講試験	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 (循環器) 30点、(消内) 30点 (呼吸器) 20点 (運動器) 20点	受講上の注意 :
---	----------

[使用テキスト・参考文献等]	
系統看護学講座 専門分野II 成人看護学② 呼吸器 医学書院	
系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑩ 運動器 医学書院	
系統看護学講座 専門分野II 成人看護学③ 循環器 医学書院	
系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑤ 消化器 医学書院	

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	外部講師・専任教員	授業形態	講義	時 期	前期
	成人看護学IV		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

脳・神経機能障害、排泄機能障害、内分泌・代謝機能障害、視覚・聴覚障害患者と家族の看護を学び、アセスメントの意義や方法を理解し、回復に向けた援助方法を学ぶ

[授業内容・授業の流れ]

1	腎・泌尿器の構造と機能(復習)、II 症状に対する看護	
2	IV 内科的治療を受ける患者の看護	
3	III 検査を受ける患者の看護 V 泌尿器科的治療を受ける患者の看護(処置)	
4	V 泌尿器科的治療を受ける患者の看護(手術)、終講試験について	
5	脳卒中の病態と症状に対する看護(意識レベル・麻痺の評価・嚥下障害)	
6	高次脳機能障害について	
7	脳梗塞 脳出血 くも膜下出血 手術を受ける患者の看護	
8	グループワーク(脳出血患者への看護)	
9	糖尿病患者の看護(食事/運動/薬物療法)	
10	内分泌疾患看護	
11	代謝疾患看護・血糖測定演習	
12	糖尿病患者の理解(心理/社会的側面)	
13	耳鼻咽喉科の症状に対する看護 検査を受ける患者の看護 メニエール病患者の看護	
14	眼科患者の症状別看護 検査、処置の看護、眼科手術の看護	
15	終講試験	

<p>〈評価の方法〉</p> <p>筆記試験の配点</p> <p>(脳神経) 30点、(内分泌) 30点 (腎泌尿器) 30点 (耳) 5点 (眼) 5点</p>	受講上の注意:
---	---------

[使用テキスト・参考文献等]

- 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院
- 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院
- 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑬ 眼 医学書院
- 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 医学書院
- 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野] 成人看護学V	講師名	外部講師	授業形態 講義	時 期	後期
			実務経験有		単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

血液・造血器疾患患者と家族の看護を学び、アセスメントの意義や方法を学ぶ  
化学療法を受ける患者とその家族の看護が理解できる  
放射線治療を受ける患者とその家族の看護が理解できる  
緩和・終末期にある患者とその家族の看護が理解できる

[授業内容・授業の流れ]

1	血液・造血器疾患とは。貧血・出血傾向・白血球減少がある患者の看護	
2	血液・造血器疾患の主な検査と放射線療法・薬物療法・輸血療法を受ける患者の看護	
3	白血病・悪性リンパ腫患者の看護	
4	呼吸器症状をもつ患者へのケア	
5	倦怠感をもつ患者へのケア 苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン	
6	消化器症状をもつ患者へのケア 浮腫のある患者へのケア	
7	精神症状のある患者へのケア がん患者の家族への支援	
8	緩和・ターミナル看護学序説	
9	ターミナル期にある人とその家族の特徴と理解	
10	ターミナル期にある人とその家族への看護援助	
11	放射線治療を受ける患者・家族の特徴 放射線治療における看護師の役割	
12	放射線治療に伴う有害反応と看護 放射線治療各論・放射線による障害と防護	
13	がん薬物療法について 抗がん薬の特徴	
14	がん薬物療法を受ける患者の看護 看護師国家試験対策	
15	終講試験	

〈評価の方法〉 筆記試験の配点 (血液) 20点、(緩和) 30点 (化学療法) 10点 (放射線) 10点 (終末) 30点	受講上の注意 :
---	----------

[使用テキスト・参考文献等]

成人看護学 緩和・ターミナル看護論 ヌーベルヒロカワ  
系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院  
系統看護学講座 専門分野II 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義演習	時 期	前期
	成人看護学VI		実務経験有			単位数(時間数)	1 (15)

【授業目標】

成人期における看護過程の展開を学ぶ

【授業内容・授業の流れ】

1	成人看護学における看護過程の展開について理解できる (成人期の特徴を生かした看護過程の考え方、特徴) 事例紹介
2	事例の基本情報・健康障害・心理・社会的情報を、情報整理シートに整理できる (ゴードンの機能的健康パターン)
3	整理された情報を分析し、情報の関連性を考える (関連図) (データベースアセスメント、関連図)
4	対象者の全体像を把握し、顕在する看護問題や潜在する看護問題が抽出できる (フォーカスアセスメント、看護上の問題の明確化：NANDA看護診断) 看護問題の優先順位を考えることができる (プロブレムリスト)
5	成人期の看護の特徴を踏まえ、看護目標を設定することができる (長期目標・短期目標) 成人期の対象の特徴を理解し、対象者に応じた看護計画を立案することができる (O-P、T-P、E-Pを5W1Hで記入できる)
6 7	シミュレーション演習：看護計画 援助の実践、評価 (様式8)
8	記録の整理・提出

〈評価の方法〉

- ・課題・記録物の提出内容
- ・演習内容

受講上の注意：

- ・事例の解剖生理、病態生理、検査、治療、標準看護について学習する
- ・指定された提出日に課題・提出物を提出する(期限を守る)
- ・必要に応じ授業中個人指導を行う。積極的に質問するなど、主体的に課題に取り組む
- ・身だしなみを整えて、看護実践する

【使用テキスト・参考文献等】

成人看護学概論 (NOUVELLE HIROKAWA)

ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程と看護診断 (ヌーベルヒロカワ)

NANDA-I 看護診断 定義と分類 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義 体験学習・ GW	時期	後期
	老年看護学 I		実務経験有		単位数(時間数)	1(30)	

【授業目標】

高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、高齢者を取り巻く社会との関係性から高齢者の生活を理解する  
健やかに老いる高齢者の多様性について考える

【授業内容・授業の流れ】

1	老年看護とは(成り立ち、定義) 老いるということ(高齢者の定義、発達理論・発達課題)
2	高齢者における生理的機能低下を理解する DVDの視聴: おばあちゃんの家 課題レポート: DVDを視聴して気付いたこと・考えたこと
3	超高齢社会の現況 高齢化率、高齢者と家族、高齢者の健康状態高齢者の死因、高齢者の暮らし
4	老年期の発達と成熟 高齢者の多様性
5	高齢社会における保健医療福祉の動向 保健医療福祉制度の変遷 高齢者医療のしくみ
6	高齢者の権利擁護 エイジズム、アドボカシー、高齢者虐待防止法の目的 高齢者虐待(定義、実態、種類、発生要因、予防)
7	高齢者の権利擁護 身体拘束(定義、例外3原則) 権利擁護のための制度(成年後見制度、日常生活自立支援事業)
8	老年看護の役割と特徴、老年看護における理論の活用
9	役立つ理論・概念の調べ学習
10	高齢者疑似体験とグループワーク
11	ワークシートを用いた高齢者疑似体験
12	体験を通しての学びを課題に沿ってグループワーク 学びを全体に共有するための発表準備
13	高齢者疑似体験を通しての学びの共有とまとめ
14	老年看護に携わる者の責務
15	筆記試験(45分)・まとめ

〈評価の方法〉

出席状況

課題

GWの参加状況

筆記試験

受講上の注意:

- GWに積極的に参加し、自分の意見を発言する
- 授業、演習などの私語は慎み、受講する

【使用テキスト・参考文献等】

老年看護学(医学書院)

国民衛生の動向 厚生労働統計協会

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	外部講師・専任教員	授業形態	時 期	前期		
	老年看護学II		実務経験有		講義	単位数(時間数)		
<b>[授業目標]</b>								
高齢者の健康状態を総合的にアセスメントするためのポイントが理解できる 高齢者の特徴を踏まえてエンパワーメントの視点を持ってアセスメントができる 高齢者の疾患の特徴及び疾患の症状に対する看護が理解できる								

<b>[授業内容・授業の流れ]</b>
---------------------

1	老年症候群	
2	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価	
3	高齢者の疾患の特徴	
4	高齢者の疾患の特徴	
5	検査を受ける高齢者の看護、薬物療法を受ける高齢者の看護	
6	手術を受ける高齢者の看護、リハビリテーションを受ける高齢者の看護	
7	入院治療を受ける高齢者の看護	
8	保健医療福祉施設および居住施設における看護	
9	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	
10	高齢者の疾患の特徴：認知症	
11	認知症基礎知識	
12	認知症基礎知識	
13	認知症とうつ病 せん妄の違い	
14	認知症者とのコミュニケーション	
15	終講試験	

<b>〈評価の方法〉</b> 筆記試験の配点 先生 (20点) 先生 (30点) 先生 (30点) 先生 (20点)	<b>受講上の注意：</b> ・授業、演習などでの私語は慎み、受講する ・積極的に質問をして学びが深まるようにすること ・グループワークなど学習活動には 意欲的に参加すること
---	---

<b>[使用テキスト・参考文献等]</b>
-----------------------

系統看護学講座 専門分野II 老年看護学 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野II 老年看護 病態・疾患論 医学書院

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野] 老年看護学III	講師名	専任教員	授業形態 講義演習	時 期	後期
			実務経験あり		単位数(時間数)	1単位 30時間

[実習目標]

- 高齢者の健康状態を総合的にアセスメントすることができる
- 高齢者の疾患の特徴及び疾患の症状に対する看護が理解できる
- 高齢者の生活を支えるための看護援助が習得できる

回	講義内容
1	高齢者のヘルスアセスメント
2	身体の加齢変化とアセスメント
3	
4	高齢者の日常生活を支える基本動作と看護ケア
5	高齢者の睡眠の特徴、生活リズムのアセスメントと看護ケア
6	高齢者の食事と看護ケア、摂食・嚥下障害のアセスメント
7	【演習】事例を用いた口腔ケアと義歯の取り扱い・GW
8	高齢者の排泄のアセスメントと看護ケア、排泄障害とその特徴
9	【演習】事例を用いたオムツ交換・GW
10	高齢者の清潔のアセスメントと看護ケア
11	【演習】事例患者のもてる力を活かした看護を考える
12	高齢者のコミュニケーションと看護ケア
13	老年期における終末期の看護 (エンドオブライフケア・ACP)
14	
15	終講試験(45分)・まとめ

〈評価の方法〉 出席状況 筆記試験	受講上の注意： ・授業、演習などの私語を慎み、受講する ・積極的に質問をして学びが深まるようにしてください
-------------------------	---

【使用テキスト】

- 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)  
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義演習	時期	前期
	老年看護学IV		実務経験あり			単位数(時間数)	1単位 15時間

[授業目標]

老年看護における看護過程の展開を学ぶ

回	講義内容
1	老年看護学における看護過程の展開について理解できる (高齢者の特徴を生かした看護過程の考え方、特徴について) 事例紹介
2	事例の基本情報・健康障害・心理・社会的情報を、情報整理シートに整理できる ( )
3	整理された情報を分析し、情報の関連性を考える (スアセスメント、関連図)
4	対象者の全体像を把握し、顕在する看護問題や潜在する看護問題が抽出できる (看護上の問題の明確化) 看護問題の優先順位を考えることができる
5	老年看護の特徴を踏まえ、看護目標を設定することができる (長期目標・短期目標) 老年期の対象の特徴を理解し、対象者に応じた看護計画を立案することができる (O - P、T - P, E - P を 5W1H で記入できる)
6	シミュレーション演習：看護計画 援助の実践 評価
7	シミュレーション演習：看護計画 援助の実践 評価
8	記録の整理・提出

〈評価の方法〉 出席状況 課題・提出物の提出状況 ループリック評価	受講上の注意： ・解剖生理、病態生理、標準看護について学習する ・指定された課題・提出物は期限厳守のこと ・提出物に記載されたコメントについて、適宜見直しを修正する ・必要に応じ授業中に個人指導を行うため、積極的に質問するなど主体性をもって課題に取り組むこと ・看護学生としてふさわしい身だしなみで演習に臨むこと
--	---

【使用テキスト・参考文献 等】

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)

系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義実習	時 期	後期
	小児看護学Ⅰ		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

【授業目標】

- 小児看護の理念と特性を理解する
- 小児看護における倫理と実践を理解する
- 子どもの成長・発達を理解する
- 子どもと家族を取り巻く社会を理解する

【授業内容・授業の流れ】

1	小児看護学科目構成・内容	小児看護の対象・目標・役割	小児看護の場と特徴
2	小児と家族の諸統計	小児看護の変遷	小児看護の課題
3	小児看護における倫理	子どもにとっての家族	家族アセスメント
4	小児看護で用いられる理論		
5	成長・発達とは	成長・発達の進み方(一般的原則)	
6	成長・発達の評価	成長・発達の評価のためのアセスメント	
7	新生児期・乳児期の特徴と支援		
8	幼児期の特徴と支援		
9	学童期の特徴と支援		
10	思春期・青年期の特徴と支援		
11	子どもにとっての遊びと学習		
12	小児各期にある子ども・家族へのコミュニケーション		
13	子どもと家族を取り巻く社会(法律・予防接種・学校保健)		
14	子どもの虐待と看護	事故・外傷と看護	
15	筆記試験(45分)・解説		

【評価の方法】

筆記試験 100点

受講上の注意:

- ① 授業前に教科書を読んで参加する
- ② 子どもに関する商品やおもちゃ等に関心をもち、子どもの成長発達と関連して理解を深める
- ③ 小児看護に関する雑誌や本を読み理解を深める
- ④ 小児に関する新聞記事や報道から、子どもを取り巻く社会の状況を理解する
- ⑤ 次世代を担う子どもを育成する一員であることを自覚する

【使用テキスト・参考文献等】

系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)  
 系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義実習	時期	前期			
	小児看護学II		実務経験者			単位数(時間数)	1(30)			
<b>【授業目標】</b>										
健康障害をもつ子どもの看護ケアを理解する(経過別・主要疾患別・治療処置別) 健康障害および入院が子どもと親・家族に及ぼす影響を理解する 子どもの安全安楽を守るために必要な看護管理を理解する 健康障害をもつ子どもに必要な援助の意義と方法を理解する 各身体機能の概念とその機能障害の機序及び病態生理を理解する										
<b>【授業内容・授業の流れ】</b>										
1	病気・障害が子どもと家族に与える影響	子どもの健康問題と看護								
2	入院中の子どもと家族の看護									
3	外来における子どもと家族の看護									
4	在宅療養中の子どもと家族の看護									
5	慢性期にある子どもと家族の看護									
6	急性期にある子どもと家族の看護									
7	周手術期の子どもと家族の看護									
8	終末期にある子どもと家族の看護									
9	症状を示す子どもの看護(不きげん、啼泣、痛み、発熱)									
10	症状を示す子どもの看護(呼吸困難、チアノーゼ、けいれん、発疹)									
11	症状を示す子どもの看護(嘔吐、下痢、脱水、浮腫)									
12	プレパレーション 子どものアセスメント									
13	検査や処置の手法と看護(骨髄穿刺・腰椎穿刺)									
14	学内演習									
15	筆記試験(45分)、解説									
<b>〈評価の方法〉</b> 筆記試験: 90点 学内演習: 10点				受講上の注意: 学内演習は実習室で行います						
<b>【使用テキスト・参考文献等】</b>										
系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)				系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院)						

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	外部講師・専任教員	授業形態	講義	時 期	前期
	小児看護学Ⅲ		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

健康障害を持つ子どもの看護を理解する(経過別・主要疾患別・治療処置別)

健康障害および入院が子どもと親・家族に及ぼす影響を理解する

子どもの安全安楽を守るために必要な看護管理が理解できる

NICU看護を理解する

特別な支援を要する子どもの支援を理解する

[授業内容・授業の流れ]

1	耳鼻咽喉疾患と看護 先天異常と看護	
2	感染症と看護 皮膚疾患と看護	
3	呼吸器疾患と看護	
4	消化器疾患と看護	
5	代謝性疾患と看護 血液・造血器疾患と看護	
6	悪性新生物と看護	
7	循環器・腎疾患の看護	
8	整形疾患と看護	
9	食物アレルギーの子どもの看護 気管支喘息の子どもの看護	
10	川崎病の子どもの看護 急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎の子どもの看護	
11	検査・処置を受ける子どもの看護	
12	低出生体重児と疾患を持つ児の看護:ディベロップメンタルケアを中心 に(講義60分・GW30分)	
13	新生児期からの医療支援と家族ケア(講義60分・GW30分)	
14	特別支援教育の現状 特別な支援を必要とする子どもの姿 支援者が大切にすべき配慮事項	
15	終講試験	

〈評価の方法〉

筆記試験の配点

先生(40点) 先生(30点)

先生(20点) 先生(10点)

受講上の注意:

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 小児看護概論 医学書院

系統看護学講座 小児臨床看護総論 医学書院

## 授業内容(シラバス) 2025年度(27期生 2年生)

授業科目	[ 専門分野 ]	講師名	専任教員	授業形態	講義 演習	時 期	後期
	小児看護学IV		実務経験者			単位数 (時間数)	1 (15)

### 【授業目標】

## 小児看護における看護過程の展開を学ぶ

### 【授業内容・授業の流れ】

1	小児看護における看護過程の展開について理解できる (子どもの特徴を生かした看護過程の考え方、特徴について) 事例紹介
2	事例の基本情報・健康障害・心理・社会的情報を、情報整理シートに整理できる
3	整理された情報を分析し、情報の関連性を考える
4	対象者の全体像を把握し、顕在する看護問題や潜在する看護問題が抽出できる 看護問題の優先順位を考えることができる
5	小児看護の特徴を踏まえ、看護目標を設定することができる 乳幼児期の対象の特徴を理解し、対象者に応じた看護計画を立案することができる
6	シミュレーション演習：看護計画　援助の実践、評価
7	シミュレーション演習：看護計画　援助の実践、評価
8	記録の整理・提出、まとめ

<p>〈評価の方法〉</p> <p>指定された課題提出状況 ：ループリック評価 80 点</p> <p>シミュレーション演習 ：ループリック評価 20 点</p>	<p>受講上の注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の解剖生理、病態生理、標準看護について学習する</li> <li>・指定された日時に課題提出を行う（期限を守る）</li> <li>・提出物に記載されたコメントについて、適宜見直し修正する</li> <li>・積極的に質問するなど、主体的に課題に取り組む</li> </ul>
---	---

# 授業内容(シラバス) 2025年度 ( 28期生 1年生 )

授業科目	[ 専門分野Ⅱ ]	講師名	専任教員	授業形態	講義	時期	後期
	母性看護学 I		実務経験有			単位数(時間数)	1(30)

## [授業目標]

1. 母性看護の対象(ライフサイクル各期)について理解する
2. 母性看護の概念と必要な理論を理解する
3. 母性の健康と社会の動向を理解する
4. 現代社会における母性保健をめぐる課題を理解する
5. 母性看護における倫理について考えることができる

## [授業内容・授業の流れ]

1	オリエンテーション 母性、父性、親性と親役割 母性看護とは	
2・3	母性看護とは 母性看護の概念、母性看護の目的や重要な視点、母性看護にかかわる職種と役割 母性看護の場と特徴	
4	母性看護における主要な理論と概念	
5・6	母子保健 母子保健統計、母子健康に関わる法律、母子保健対策	
7・8	グループワーク:ライフサイクル各期	
9・10	思春期の成長・発達と健康問題 身体・心理・社会的成長・発達、ヘルスプロモーション 思春期の健康問題と看護	
11	成熟期の成長・発達と健康問題 身体・心理・社会的成長・発達、ヘルスプロモーション 成熟期の健康問題と看護	
12	成熟期の成長・発達と健康問題 身体・心理・社会的成長・発達、ヘルスプロモーション 成熟期の健康問題と看護 更年期の成長・発達と健康問題 身体・心理・社会的成長・発達、ヘルスプロモーション 更年期の健康問題と看護	
13	更年期の成長・発達と健康問題 身体・心理・社会的成長・発達、ヘルスプロモーション 更年期の健康問題と看護 老年期の成長・発達と健康問題 身体・心理・社会的成長・発達、ヘルスプロモーション 老年期の健康問題と看護 リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける概念と動向	
14	リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する課題 リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する看護の実際 性暴力被害者と看護、児童虐待と看護 まとめ	
15	筆記試験・解説	

## 《評価の方法》

筆記試験

提出物

授業態度、グループワークへの参加度

## 受講上の注意:

1. 提出物に関しては、提出時間に遅れた場合や内容が不足している場合は減点とする。
2. 質問をしながら講義を進めるので、事前・事後学習は必ずしておく
3. グループワークには積極的に参加する

## [使用テキスト]

母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護(メディカルフレンド社)

## 授業内容(シラバス) 2025年度 ( 27期生 2年生 )

授業 科目	[ 専門分野Ⅱ ] 母性看護学Ⅱ	講 名	外部講師 実務経験有	授 形 態	講義 実習	時期	前期
						単位数(時間数)	1(30)

### [授業目標]

- 妊娠期・分娩期における母子の生理、心理・社会的特徴を理解する。
- 妊娠期・分娩期における母子と家族への看護を理解する。
- 妊娠期・分娩期のハイリスク状態にある母子と家族への看護を学ぶ。

### [授業内容・授業の流れ]

1	妊娠期における母子の看護		
2	妊娠期における母子の看護		
3	妊娠期における母子の看護		
4	妊娠期における母子の看護		
5	妊娠期における母子の看護	— ※妊娠悪阻を含む	
6	妊娠期における母子の看護		
7	妊娠期における母子の看護		
8	妊娠期における母子の看護		
9	妊娠期における母子の看護		
10	分娩期における母子の看護	— ※無痛分娩、陣痛異常	
11	分娩期における母子の看護	— 胎便吸引症候群、 胎児心拍数モニタリングを 含む	
12	分娩期における母子の看護		
13	ハイリスク状態の妊婦の看護		
14	ハイリスク状態の産婦の看護		
15	終講試験・解説		

### 《評価の方法》

#### 筆記試験の配点

先生:70点

先生:30点

### 受講上の注意:

テキストは毎回、母性看護学①と母性看護学②を持参のこと

### [使用テキスト]

母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護(メヂカルフレンド社)

マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(メヂカルフレンド社)

## 授業内容(シラバス) 2025年度 ( 27期生 2年生 )

授業 科目	[ 専門分野Ⅱ ] 母性看護学Ⅲ	講 名	外部講師 専任教員 実務経験有	授 形 態	講義 実習	時期	前期
						単位数(時間数)	1(30)

### [授業目標]

1. 産褥期・新生児期における母子の生理、心理・社会的特徴を理解する。
2. 産褥期・新生児期における母子と家族への看護を理解する。
2. 産褥期・新生児期のハイリスク状態にある母子と家族への看護を学ぶ。

### [授業内容・授業の流れ]

1	産褥期・育児期における母子の看護		
2	産褥期・育児期における母子の看護	※尿路感染、排尿障害、乳房の異常を含む	
3	産褥期・育児期における母子の看護		
4	新生児期の看護		
5	新生児期の看護		
6	新生児期の看護	※新生児メレナを含む	
7	新生児期の看護		
8	新生児期の看護		
9	新生児期の看護		
10	ハイリスク状態の褥婦の看護		
11	ハイリスク状態の褥婦の看護 ハイリスク状態の新生児の看護		
12	ハイリスク状態の新生児の看護		
13	【学内実習】		
14	・ 諸計測・沐浴・臍処置・オムツ交換		
15	終講試験・解説		

### 《評価の方法》

先生:筆記試験、出席状況

授業への参加度

課題 レポート提出

先生:筆記試験

授業態度

グループワークへの参加度

筆記試験の配点

先生:20点

先生:80点

### 受講上の注意:

宮本先生:特になし

森田:1. テキストは毎回、母性看護学①と母性看護学②を持参のこと

2. 提出物に関しては、提出時間に遅れた場合や内容が不足している場合などは減点とする

3. 質問をしながら講義を進めるので、事前・事後学習は必ずしておくこと

4. グループワークは積極的に参加する

### [使用テキスト]

母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護(メヂカルフレンド社)

マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(メヂカルフレンド社)

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義 演習	時 期	後期
	母性看護学IV		実務経験有			単位数(時間数)	1 (15)

【授業目標】

母性看護における看護過程の展開を学ぶ

【授業内容・授業の流れ】

1	母性看護学における看護過程の展開について 母性看護学の看護過程の特徴 事例紹介 情報整理シートに整理
2	整理された情報の分析
3	整理された情報の分析と、情報の要約・関連性を考える
4	
5	対象者の全体像の把握、看護課題（健康問題またはウェルネスの視点）の抽出 看護課題の優先順位を考える
6	看護目標の設定 看護計画の立案
7	グループワーク、演習の準備・練習
8	シミュレーション演習：看護計画に基づく援助の実践、評価

〈評価の方法〉 課題・提出物：ループリック評価 80 点 演習：ループリック評価 20 点	受講上の注意： ・事前に母性看護学に関する解剖・生理、妊娠期、分娩期、産褥期の復習をしておく（ファイルに綴じて提出） ・事前に産褥期、新生児期の標準的な看護計画を調べておく（ファイルに綴じて提出） ・提出物は、期限を守り、指定された内容で提出する。 ・必要に応じ授業中個人指導を行う。積極的に質問するなど、主体的に課題に取り組む ・グループワークは積極的に参加する ・身だしなみを整えて実習に臨む
---	--

【使用テキスト・参考文献等】

母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護 メディカルフレンド社  
マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メディカルフレンド社

授業内容(シラバス) 2025年度 (28期生 1年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	外部講師	授業形態	時 期	後期		
	精神看護学 I		実務経験有		講義演習	単位数(時間数)		
<b>[授業目標]</b>								
1. 精神医療看護の歴史が理解できる 2. 精神看護の対象が理解できる 3. 精神看護の機能と役割・精神保健医療の動向について理解できる 4. 人間の心の発達と心の健康に関連する要因、心の健康を維持増進するための必要な知識・技術が理解できる								

**[授業内容・授業の流れ]**

1	科目オリエンテーション 精神看護の目的と意義・我が国における精神科医療の現状と課題 精神看護学が展開される場を理解する～精神科ってどんなところ
2	精神看護学が展開される場を理解する～精神科ってどんなところ
3	精神機能とセルフケア 心の構造と働き S.フロイトの精神力動論に基づいて
4	不安と防衛機制
5	ライフサイクルと心の発達 エリクソンの漸成的発達図式について
6	ストレス・危機理論の概要 具体的な危機介入の方法について
7	家族と精神保健 樹形図の書き方 家族システム論について
8	集団力動論 クラスでグループダイナミクスを体感する
9	精神保健福祉医療の沿革・歴史① グループワーク
10	精神保健福祉医療の沿革・歴史② グループワークと発表
11	精神医療・看護と倫理 倫理的問題についての事例検討を含む
12	精神保健と関係法規 精神保健福祉法
13	精神保健と関係法規 障害者総合支援法ほか 地域精神医療保健 地域で生活する精神障害者の実際
14	リエゾン精神看護とナースのメンタルヘルス・まとめ
15	筆記試験(45分)、解説

評価の方法) 筆記試験	受講上の注意： 特になし
----------------	-----------------

**[使用テキスト]**

新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メディカルフレンド社

授業内容(シラバス) 2025年度 ( 27期生 2年生 )

授業科目	[ 専門分野 ]	講師名	外部講師	授業形態	講義	時期	前期
	精神看護学Ⅱ		実務経験有			単位数(時間数)	1 (30)

[授業目標]

精神障害を理解する

精神を障がいされた人の人権を尊重し、「よりよく生きようとする人」を支援する

[授業内容・授業の流れ]

1	第1章 精神医療・看護の対象者：精神(心)を病むということ	
2	第1章 精神医療・看護の対象者：精神(心)を病むということ	
3	第2章 精神障害をもつ人の抱える症状と診断の為の検査	
4	第3章 主な治療法 薬物療法の実際(演習)	
5	第3章 コミュニケーション	
6	第3章 SST(演習)	
7	SST(演習)	
8	第3章 統合失調症について	
9	第3章 強迫障害(境界性人格障害についてのメカニズム)	
10	第3章 食行動障害および摂食障害(ビデオ)	
11	第3章 睡眠障害が精神疾患に与える影響	
12	第3章 神経認知障害群(認知症 BPSD)	
13	第3章 リハビリテーション療法(演習)	
14	第3章 行動制限(演習)	
15	終講試験・解説	

〈評価の方法〉

筆記試験 100点

受講上の注意：

予習・復習をしてください。

[使用テキスト・参考文献等]

新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メディカルフレンド社

授業内容(シラバス) 2025年度 ( 27期生 2年生 )

授業科目	[ 専門分野 ]	講師名	専任教員	授業形態	講義	時期	前期
	精神看護学III						1 (30)

[授業目標]

- 対象者を共感的に理解する技術（共感的に理解しようと努められているか自らを丁寧に振り返る技術）が必要とされる理由を理解する
- 対象者と信頼し合える関係を育てる対人関係技術と、こうした技術が求められる理由を理解する
- 精神症状が対象者の生活にどのように表れているのかを読み取り、対象者の強みを活かしながら、対象者と共に、対象者が望む生活が整うように支援する方法を理解する

[授業内容・授業の流れ]

1	精神看護では、対象者を共感的に理解する技術（共感的に理解しようと努められているか自らを丁寧に振り返る技術）が重要とされる理由を理解する
2	★ロジャーズのカウンセリング理論
3	★ロジャーズの理論を用いてプロセスレコードを分析する技術 以上の解説を聴いて頂いた後に、うつ状態の対象者を守り支援するための工夫を考察する為に <b>映画「愛と青春の旅立ち」を視聴</b> する。そして深く悩む対象者の救い、支えとなる傾聴の仕方を考察する ☆映画を視聴した後に映画の主人公になって、親友の悩みを聴く体験をする（ロールプレイ） そしてその場面をプロセスレコードで再構成し、効果的な傾聴が出来ていたか分析します
4	精神看護では対象者と信頼関係を育てる対人関係的技術が必要になる理由を理解する
5	★トラベルビーの対人関係理論 この解説を聴いて頂いた後に、相互理解を深めるプロセスのたどり方を理解する為に、 <b>映画「AI」の冒頭を視聴</b> （約45分・傷心の母親と子供タイプのロボットの出会いから別れまで） する。そしてどのような関心の寄せ方や、メッセージの送り方や、応え方が両者の関係性を深めるのかを考察する
6	精神看護では精神症状が対象者の生活にどのように表れているのか読み取り、対象者の強みを活かしながら、対象者と共に、対象者が望む生活が整うように支援する方法を理解する
7	★オレム・アンダーウッドのセルフケア理論
8	この解説を聴いて頂いた後で、 <b>ドキュメンタリービデオ「余命一ヶ月の花嫁」(本人の映像)を視聴</b> して、 癌患者の末期の看護で問われる精神看護を考察します。 ☆本事例で挙式前に実際に病棟で持たれたであろうカンファレンスを再現し、挙式する方向で 進めるのか否か、スタッフの視点から意見を交換し、精神看護の目的にたいする理解を深める
9	★ストレングス理論
10	この解説を聴いて頂いた後に、統合失調症の急性期と慢性期においてどのようなアセスメントの もとで、対象者のセルフケア能力を整えていくケアプランを立案するのか考察する
11	<b>映画「ピューティフルマインド」を視聴</b> する。そして統合失調症の急性期や慢性期で適応されるケアプラン を紹介し、その内容を解説した後にグループワークにて内容を深める
12	★映画「ブラックスワン」を視聴し、急性ストレス障害の患者の視点で心理的な変化の理解を深める
13	★オレム・アンダーウッドのセルフケア理論をもとに、急性ストレス障害の患者が安心して 自らのセルフケアに向ける支援を実践するための、工夫の仕方について理解を深める
14	★ボーダーラインシフト 境界型人格障害者の事例をもとに、対象者のセルフケア能力を高める支援の工夫の仕方をロールプレイで深める。
15	終講試験・解説

〈評価の方法〉 各課題レポート 筆記試験	受講上の注意： ロールプレイ等では積極的に発言して、多くの人の視点を大切に 共有しながら学べるように努めて下さい
----------------------------	--

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員	授業形態	講義 演習	時 期	後期
	精神看護学IV		実務経験者			単位数(時間数)	1 (15)

【授業目標】

精神看護における看護過程の展開を学ぶ(統合失調症の事例展開)

【授業内容・授業の流れ】

1	<b>統合失調症の病態の理解</b> プロセスレコードの理解
2 3	<b>統合失調症の急性期の患者</b> の看護の情報の整理とアセスメント
4 5	<b>統合失調症の慢性期の患者</b> の看護の情報の整理とアセスメント
6 7	<b>統合失調症の慢性期の患者</b> の関連図の作成とケアプランの立案
8	ケアプランの立案の工夫のしかた

〈評価の方法〉 出席状況 記録の提出 (評価表をもとに自己学習・看護展開・個人ワーク等の取り組みを評価します) 課題レポート 100点	受講上の注意： ・積極的に質問するなど主体的に課題に取り組む姿勢を評価します
---	---

[使用テキスト・参考文献等]

- ・精神看護学概論/精神保健 (メジカルフレンド社)
- ・精神障害をもつ人の看護 (メジカルフレンド社)
- ・ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 (ヌーベルヒロカワ)
- ・NANDA-I 看護診断定義と分類 2021-2023 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[統合分野]	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態 講義	時期	前期
					単位数(時間数)	1(30)

[授業目標]

災害医療に関する基本的な知識・技術・態度を習得する  
災害サイクルに応じた看護の役割を理解し、被災者ケアを学ぶ  
国際看護の基本理念を理解する

[授業内容・授業の流れ]

1	災害の定義 災害と健康障害	
2	災害医療の特徴	
3	マスギャザリングと NBC 災害への対応 災害と情報	
4	災害看護と法律 トリアージ	
5	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	
6	被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア	
7	健康を取り巻く世界の情勢と国際看護 国際協力の基礎知識	
8	国際協力の基礎知識	
9	国際協力と看護 21世紀の国際協力の課題	
10	奈良県総合防災訓練オリエンテーション	
11	奈良県総合防災訓練オリエンテーション	
12	奈良県総合防災訓練	
13	奈良県総合防災訓練	
14	災害医療概論	
15	試験および解説	

〈評価の方法〉 受講上の注意：

[使用テキスト・参考文献等]

看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学：医学書院  
(参考) 新体系看護全書 看護の統合と実践② 災害看護学 (メディカルフレンド社)

授業内容(シラバス) 2025年度 (26期生 3年生)

授業科目	[専門分野] 看護管理	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態 講義	時 期	前期
						1(15)

[授業目標]

- 専門職として看護の対象サービスを支える看護サービスの管理が理解できる
- 看護の場におけるリーダーシップ及びフォローシップについて理解できる

[授業内容・授業の流れ]

1	看護とマネジメント
2	マネジメントに必要な知識と技術
3	看護ケアのマネジメント
4	看護ケアのマネジメント
5	看護職のキャリアとマネジメント
6	看護サービスのマネジメント 看護を取り巻く諸制度
7	看護サービスのマネジメント 看護を取り巻く諸制度
8	筆記試験(45分)、解説

[評価の方法]

筆記試験

受講上の注意:

特になし

[使用テキスト・参考文献等]

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院)

授業内容(シラバス) 2025年度 (27期生 2年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	外部講師 実務経験有	授業形態 講義	時期 単位数(時間数)	前期
	医療安全					1(20)

[授業目標]

医療安全を学ぶ意義を理解し、医療現場における事故防止の取り組みと事故発生時の対応と倫理的配慮について学ぶ

[授業内容・授業の流れ]

1	医療安全と看護の理念
2	医療安全への取り組みと医療の質の評価
3	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント
4	チームで取り組む安全文化の醸成
5	看護業務に関連する事故と安全対策
6	在宅看護における医療事故と安全対策
7	看護学生の実習と安全、KYTトレーニング
8	職業感染・感染経路・標準予防策：講義
9	経路別予防策・就業制限・廃棄物の取り扱い：講義+グループワーク
10	試験および解説

〈評価の方法〉

- ・講義態度
- ・試験評価

受講上の注意：

医療安全と感染管理は、看護師として業務する以上、基本的なことであるため、予習、復習が必要である。

[使用テキスト・参考文献等]

ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 (メディカ出版)

授業内容(シラバス) 2025年度 (26期生 3年生)

授業科目	[専門分野]	講師名	専任教員 実務経験有	授業形態	講義 演習	時 期	後期
	統合演習					単位数(時間数)	1 (20)

[ねらい]

既習の知識・技術・態度を統合し、基礎看護教育から臨床実践へ移行するための基盤を形成する

[授業目標]

- 統合的な知識と技術を活用し、基本的な援助技術が実践できる
- シミュレーション学習を通して、対象のフィジカルアセスメントを実施できる
- シミュレーション学習を通して、対象に必要な看護援助技術を実践できる
- 患者の病態の変化に気づき、優先順位の判断や臨機応変な対応ができる
- 上記を統合的に学び、自己の課題を明確にすることができます

[授業内容・授業の流れ]

1	授業の進め方と学習方法、SBARによる報告方法 ・複数受け持ち患者の観察と確認のシミュレーション (点滴挿入の患者/ 酸素療法と酸素療法中の患者/ 病床環境)	
2	・複数受け持ち患者の日勤帯午後の検温のシミュレーション (バイタルサイン/ 呼吸器の解剖生理・呼吸のメカニズム/ 呼吸器のフィジカルアセスメント)	
3		
4	危険予知トレーニング	
5	脳出血患者の看護のシミュレーション ・脳神経系のフィジカルアセスメント技術	
6	BLS (一次救命処置)	技術確認 (事例に沿った吸引(口腔・鼻腔)、輸液管理(抗生素の側管注射))
7		
8	技術確認 (事例に沿った吸引(口腔・鼻腔)、 輸液管理(抗生素の側管注射))	BLS (一次救命処置)
9		
10	まとめ、終講試験	

<p>〈評価の方法〉</p> <p>GW・演習の取り組み : 15点</p> <p>事前学習・レポート: 25点</p> <p>技術確認: 30点</p> <p>筆記試験: 30点</p>	<p>受講上の注意:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレーション学習を中心とした演習を行います。積極的に参加すること。また、GW・演習で積極的に意見交換して下さい</li> <li>事前学習は、演習内容に必要な事前課題を提示する</li> <li>事後学習は、演習の内容を振り返り、課題レポートを提示する</li> <li>GW・演習の取り組みは、態度面の評価になります(演習に臨む姿勢はもちろんですが、身だしなみ、忘れ物、出席状況なども含みます)</li> </ul>

[使用テキスト・参考文献等]

指定なし。事例に応じたテキストを準備しましょう。